

## ひとり親家庭アンケート調査

### 1 調査の目的

この調査は、「世田谷区子ども計画（第2期）」の策定にあたり、世田谷区のひとり親家庭の実態を把握し、今後の区のひとり親家庭に対する支援策充実に向けた検討に資することを目的とする。

### 2 調査対象

平成25年10月1日現在、世田谷区児童育成手当受給世帯 4,699 人

### 3 抽出方法

世田谷区児童育成手当受給世帯のうち、申請理由が離婚、死亡、生死不明、遺棄、未婚である世帯を抽出

### 4 調査方法

郵送配布 - 郵送回収

### 5 調査時期

平成25年11月7日～11月25日

### 6 回収数・回収率

発送・配布数	有効回収数 (有効回収率)
4,699	1,792 (38.1%)

# 1 家族の状況、生活について

## (1) ひとり親の性別 (問1)

ひとり親の性別は、「女性 (94.9%)」が大多数を占め、「男性」は 5.1%である (図表 1 - 1)。

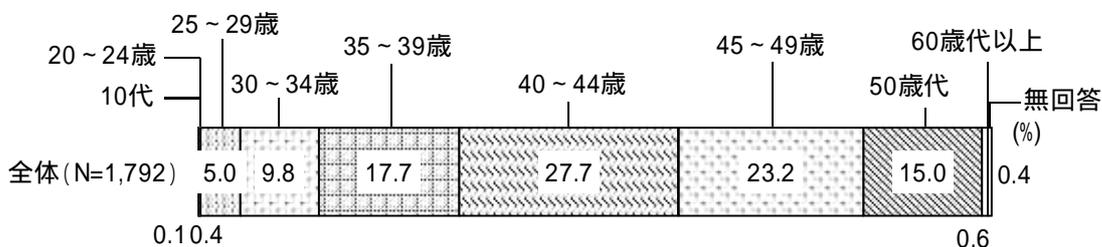
図表 1 - 1 ひとり親の性別 (全体)



## (2) ひとり親の年齢 (問2)

ひとり親の年齢は、「40～44歳 (27.7%)」が最も多く、これに「45～49歳 (23.2%)」、「35～39歳 (17.7%)」が続いている。「50歳代」という回答も 15.0%あった (図表 1 - 2)。

図表 1 - 2 ひとり親の年齢 (全体)



## (3) 居住地 (問3)

居住地は、「世田谷地域 (30.0%)」が最も多く、これに「玉川地域 (21.3%)」、「砧地域 (20.8%)」が続いている (図表 1 - 3)。

図表 1 - 3 居住地 (全体)



## (4) 居住年数 (問4)

居住年数は、「10年以上」が28.6%と最も多く、これに「5年以上10年未満(22.5%)」が続いている(図表1-4)。

図表1-4 居住年数(全体)



## (5) 居住を始めた時期 (問5)

居住を始めた時期は「ひとり親になった後(56.1%)」が「ひとり親になる前(43.5%)」を上回っている(図表1-5)。

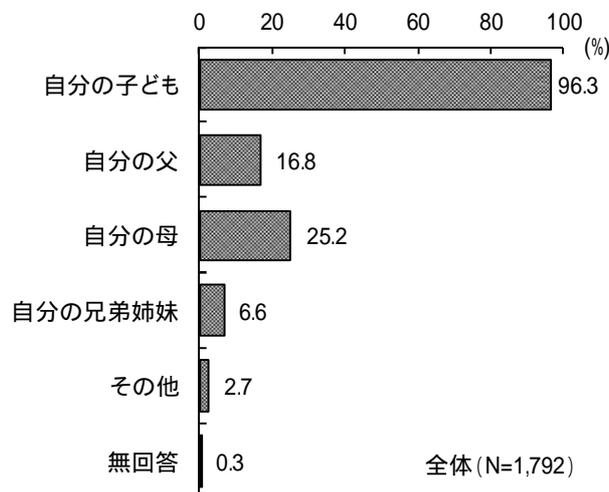
図表1-5 居住を始めた時期(全体)



## (6) 同居家族 (問6)

同居家族は、「自分の子ども(96.3%)」が最も多く、これに「自分の母(25.2%)」「自分の父(16.8%)」が続いている(図表1-6)。

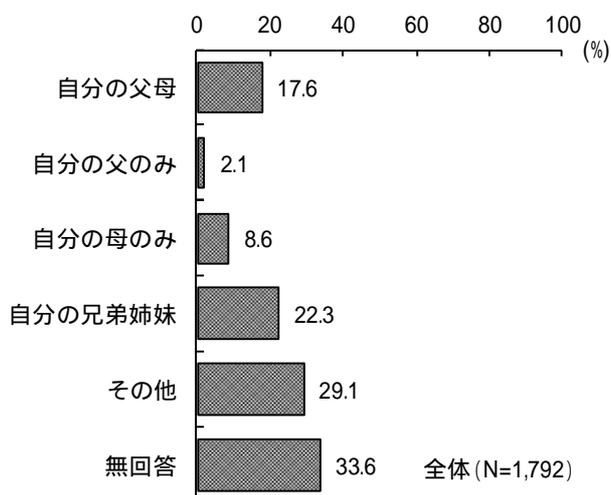
図表1-6 同居家族(全体:複数回答)



( 7 ) 近居の親族 ( 問 7 )

近居の家族は「自分の兄弟姉妹 ( 22.3% )」、「自分の父母 ( 17.6% )」、「その他 ( 29.1% )」が多かった。無回答も 33.6%あった ( 図表 1 - 7 )。

図表 1 - 7 近居の家族 ( 全体 : 複数回答 )



( 8 ) 子どもの属性 ( 問 8 )

性別

第 1 子の性別は「男性」が 48.3%、「女性」が 50.6%である。第 2 子、第 3 子も「女性」の比率が「男性」を上回る。第 4 子、第 5 子では「男性」の比率が「女性」を上回っている。( 図表 1 - 8 - 1 )。

図表 1 - 8 - 1 性別 ( 全体 )

		性別 (%)			
		男性	女性	無回答	
第 1 子	( N=1,792 )	48.3	50.6	1.2	
第 2 子	( n= 769 )	48.2	51.2	0.5	
第 3 子	( n= 194 )	46.9	53.1	0.0	
第 4 子	( n= 23 )	60.9	39.1	0.0	
第 5 子	( n= 4 )	75.0	25.0	0.0	
第 1 子 ~ 第 5 子の計		( n=2,782 )	48.3	50.8	0.9

## 年齢

第1子の年齢は、「13～15歳(19.9%)」が最も多く、これに「16～18歳(18.2%)」、「19歳以上(14.6%)」が続いている。第2子で最も多かったのは「13～15歳(23.7%)」で、第3子では「16～18歳(24.7%)」、第4子では「13～15歳(30.4%)」であった。(図表1-8-2)

図表1-8-2 年齢(全体)

		(%)							
		0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	7 ～ 9 歳	10 ～ 12 歳	13 ～ 15 歳	16 ～ 18 歳	19 歳 以上	無 回 答
第1子	(N=1,792)	7.2	10.8	12.2	14.7	19.9	18.2	14.6	2.4
第2子	(n= 769)	4.7	8.8	13.4	17.0	23.7	20.5	9.2	2.6
第3子	(n= 194)	6.7	8.2	10.8	21.1	21.1	24.7	4.1	3.1
第4子	(n= 23)	8.7	8.7	13.0	13.0	30.4	17.4	8.7	0.0
第5子	(n= 4)	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
第1子～第5子の計 (n=2,782)		6.5	10.1	12.5	15.8	21.1	19.3	12.3	2.5

## 学齢

第1子の学齢は「高校生(19.4%)」、「中学生(19.3%)」、「未就学児(16.7%)」の順となっている。第2子で最も多かったのは「高校生(22.6%)」であり、第3子では「高校生(25.8%)」、第4子では「中学生(26.1%)」となっている(図表1-8-3)

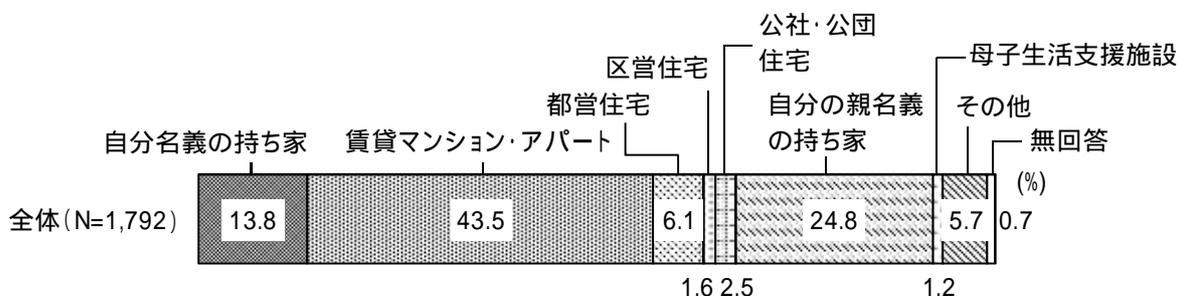
図表1-8-3 学齢(全体)

		(%)						
		未 就 学 児	小 学 校 1 ～ 3 年 生	小 学 校 4 ～ 6 年 生	中 学 生	高 校 生	そ の 他	無 回 答
第1子	(N=1,792)	16.7	11.8	15.1	19.3	19.4	15.4	2.4
第2子	(n= 769)	12.7	11.8	18.7	22.5	22.6	9.6	2.0
第3子	(n= 194)	13.9	10.8	19.6	23.2	25.8	4.6	2.1
第4子	(n= 23)	13.0	17.4	13.0	26.1	17.4	8.7	4.3
第5子	(n= 4)	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
第1子～第5子の計 (n=2,782)		15.4	11.8	16.4	20.5	20.7	13.0	2.3

(9) 住居(問9)

住居は「賃貸マンション・アパート(43.5%)」が最も多く、これに「自分の親名義の持ち家(24.8%)」、「自分名義の持ち家(13.8%)」が続いている(図表1-9)。

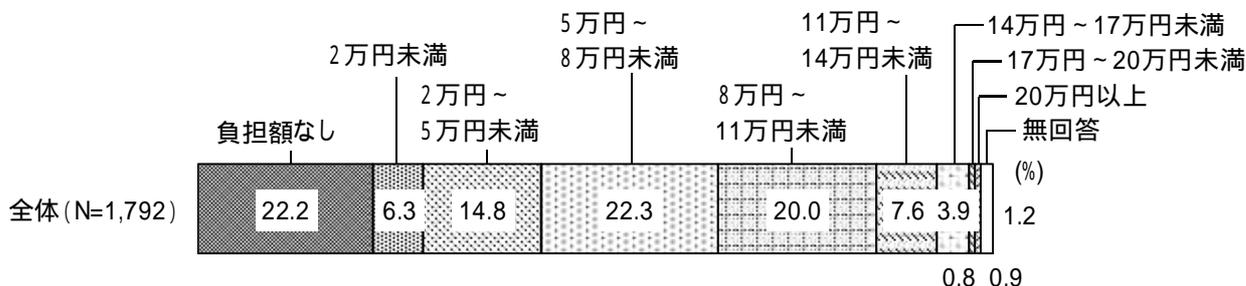
図表1-9 住居(全体)



(10) 毎月負担している住居費(問10)

毎月負担している住居費は、「5万円～8万円未満(22.3%)」が最も多く、これに「負担額なし(22.2%)」、「8万円～11万円未満(20.0%)」が続いている(図表1-10)。

図表1-10 毎月負担している住居費(全体)



(11) ひとり親になってからの年数(問11)

ひとり親になってからの年数は、「5年以上～10年未満(29.0%)」が最も多く、これに「10年以上(21.9%)」が続いている(図表1-11)。

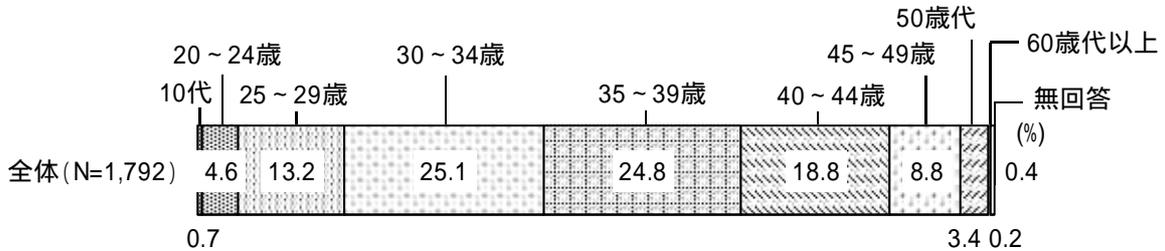
図表1-11 ひとり親になってからの年数(全体)



## (12) ひとり親になったときの年齢 (問 12)

ひとり親になったときの年齢は、「30～34歳(25.1%)」が最も多く、「35～39歳(24.8%)」と合わせて約半数となっている(図表1-12)。

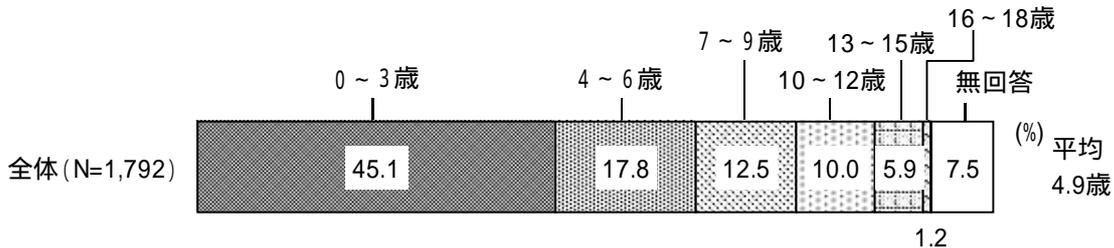
図表1-12 ひとり親になったときの年齢(全体)



## (13) ひとり親になったときの末子の年齢 (問 13)

ひとり親になったときの末子の年齢は、「0～3歳(45.1%)」が最も多く、これに「4～6歳(17.8%)」「7～9歳(12.5%)」が続いている(図表1-13)。

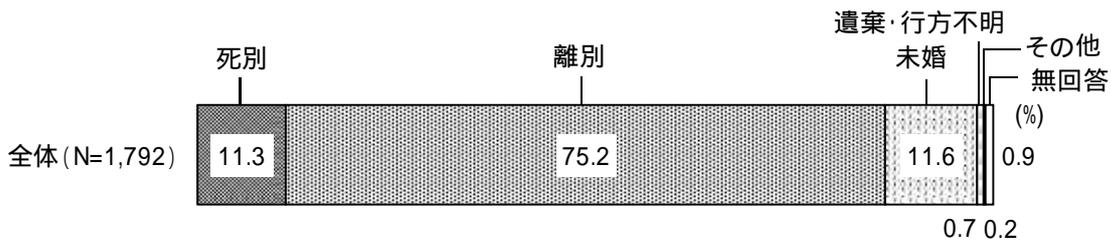
図表1-13 ひとり親になったときの末子の年齢(全体)



## (14) ひとり親になった理由 (問 14)

ひとり親になった理由としては、「離別(75.2%)」が最も多く、これに、「未婚(11.6%)」「死別(11.3%)」が続いている(図表1-14-1)。

図表1-14-1 ひとり親になった理由(全体)



子どもの認知をしてもらっているか（問 14 - SQ）

子どもの認知をしてもらっている未婚のひとり親は 40.6%であり、認知をもらっていないケース（40.6%）を下回っている（図表 1 - 14 - 2）

図表 1 - 14 - 2 子どもの認知をもらっているか（全体）＜未婚のひとり親＞



(15) 養育費をもらっているか（問 14 - 1）

「離婚」「未婚」によりひとり親になった場合、養育費をもらっている親は 31.4%であり、もらっていない（68.4%）を下回っている（図表 1 - 15）

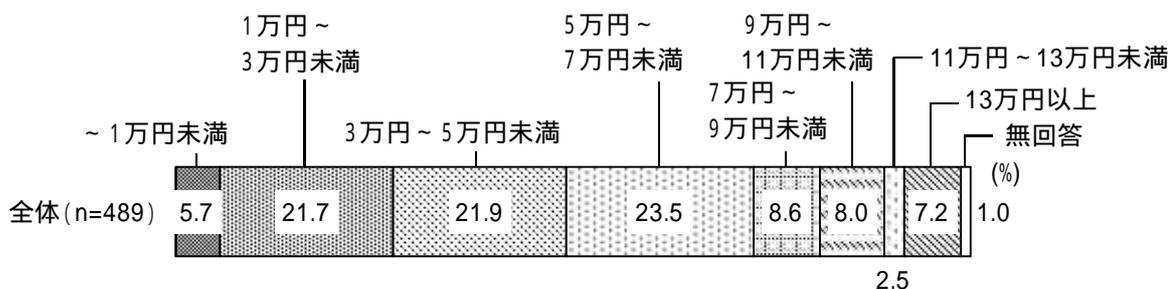
図表 1 - 15 養育費をもらっているか（全体）＜「離婚」「未婚」のひとり親＞



(16) 養育費の月額（問 14 - 1 - 1）

養育費をもらっているひとり親に、養育費の月額をたずねたところ、「5万円～7万円未満（23.5%）」が最も多く、これに「3万円～5万円未満（21.9%）」、「1万円～3万円未満（21.7%）」が続いている。（図表 1 - 16）

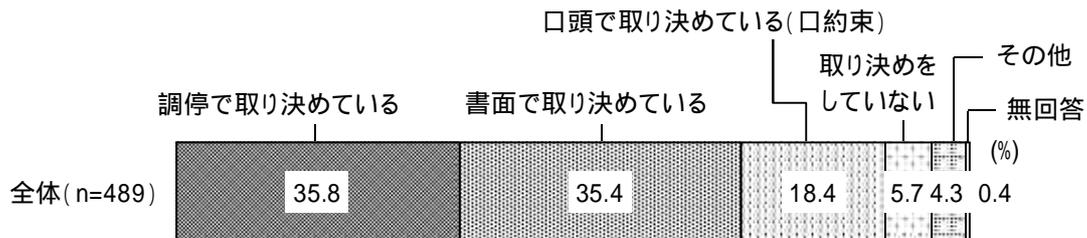
図表 1 - 16 養育費の月額（全体）＜「離婚」「未婚」のひとり親＞



## (17) 養育費についての取り決め (問 14 - 1 - 2)

養育費をもらっているひとり親に、養育費についての取り決めをたずねたところ、「調停で取り決めている (35.8%)」ケースと「書面で取り決めている (35.4%)」が多かった。「口頭で取り決めている (口約束)」は 18.4%、取り決めをしていないのは 5.7%であった (図表 1 - 17)。

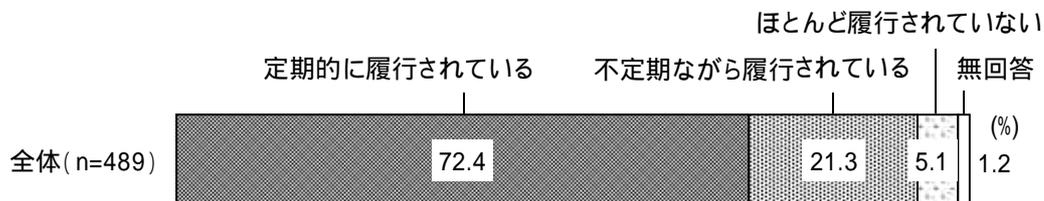
図表 1 - 17 養育費についての取り決め (全体) &lt; 「離婚」「未婚」のひとり親 &gt;



## (18) 養育費の履行状況 (問 14 - 1 - 3)

養育費をもらっているひとり親に、養育費の履行状況についてたずねたところ、「定期的に履行されている (72.4%)」ケースが最も多く、これに「不定期ながら履行されている (21.3%)」が続いている (図表 1 - 18)。

図表 1 - 18 養育費の履行状況 (全体) &lt; 養育費をもらっているひとり親 &gt;

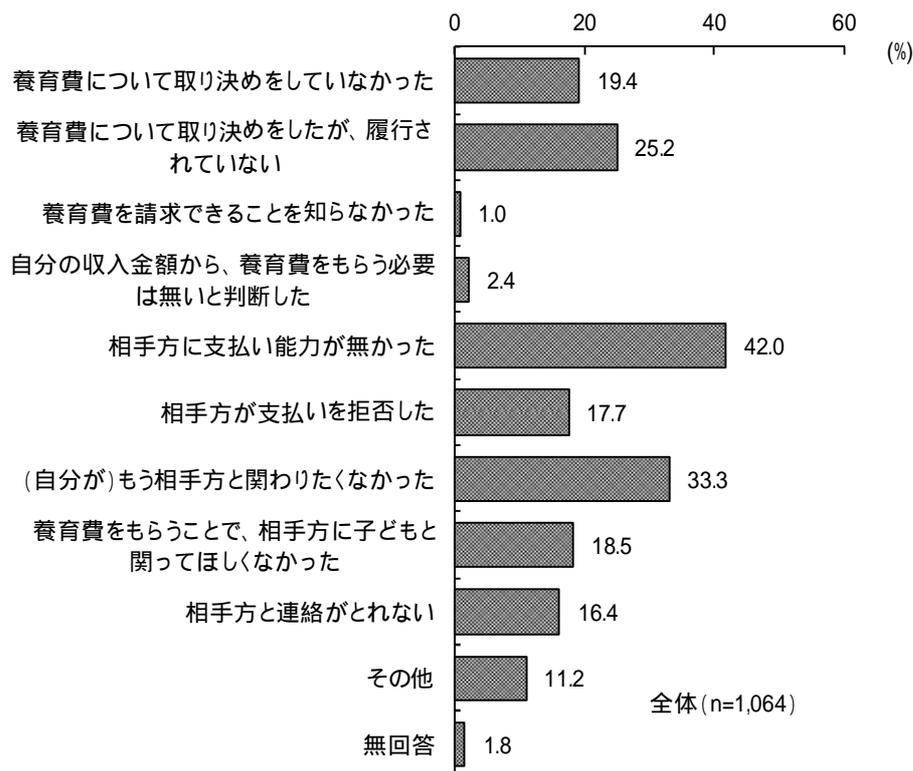


(19) 養育費をもらっていない理由 (問 14 - 1 - 4)

養育費をもらっていないひとり親に、その理由たずねたところ、「相手方に支払い能力がなかった(42.0%)」が最も多く、これに「(自分が)もう相手方と関わりたくなかった(33.3%)」、「養育費について取り決めをしていたが、履行されていない(25.2%)」が続いている(図表 1 - 19)。

図表 1 - 19 養育費をもらっていない理由 (全体：複数回答)

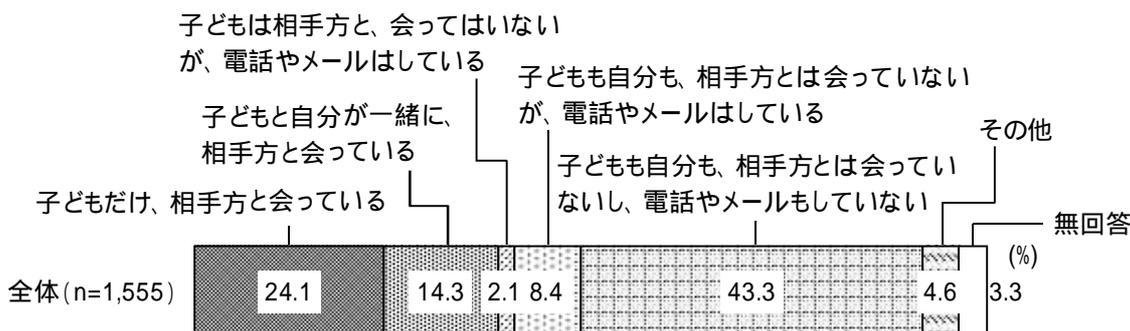
< 養育費をもらっていないひとり親 >



(20) 相手方との面会等の状況 (問 14 - 2)

「離婚」「未婚」によりひとり親になった場合の相手方との面会の状況についてたずねたところ、「子どもも自分も、相手方と会っていないし、電話やメールもしていない(43.3%)」が最も多く、これに、「子どもだけ、相手方と会っている(24.1%)」、「子どもと自分が一緒に、相手方と会っている(14.3%)」が続いている(図表 1 - 20)。

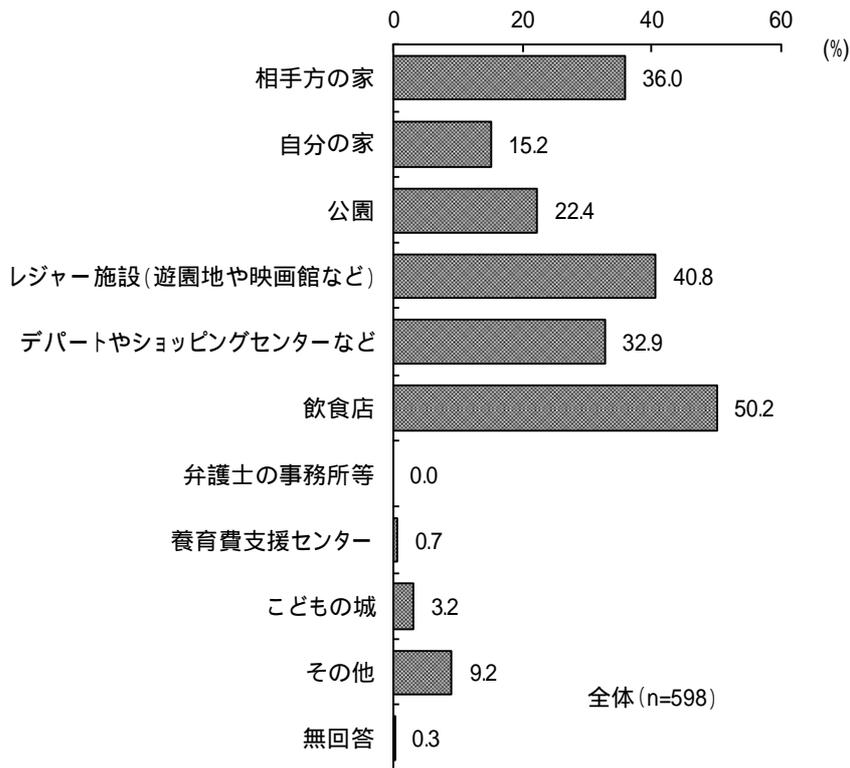
図表 1 - 20 相手方との面会状況 (全体) < 「離婚」「未婚」によりひとり親になった人 >



## (21) 子どもが相手方と会う場所 (問 14 - 2 - 1)

子どもが相手方と会う場合の場所は、「飲食店 (50.2%)」、「レジャー施設 (遊園地や映画館など) (40.8%)」などが多かった (図表 1 - 21)。

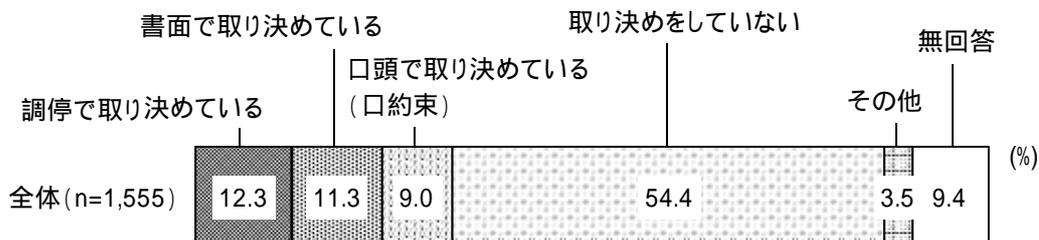
図表 1 - 21 子どもが相手方と会う場所相手方との面会状況 (全体：複数回答)  
< 子どもが相手方と会っているケース >



## (22) 面会交流についての取り決め (問 14 - 3)

「離婚」「未婚」によりひとり親になった場合の相手方との面会交流についての取り決めについてたずねたところ、「取り決めをしていない (54.4%)」が最も多く、これに「調停で取り決めている (12.3%)」、「書面で取り決めている (11.3%)」が続いている (図表 1 - 22)。

図表 1 - 22 面会交流についての取り決め (全体)  
< 「離婚」「未婚」によりひとり親になった人 >



(23) 別れるにあたっての経済的な問題の有無 (問 14 - 4)

「離婚」「未婚」によりひとり親になった場合の経済的な問題は、「あった(51.2%)」が「無かった(30.0%)」を上回っている(図表1-23)。

図表1-23 別れるにあたっての経済的な問題の有無(全体)  
 <「離婚」「未婚」によりひとり親になった人>



(24) 別れるにあたっての暴力や嫌がらせの有無 (問 14 - 5)

「離婚」「未婚」によりひとり親になった場合の暴力や嫌がらせは、「あった(34.3%)」が「無かった(53.2%)」を下回っている(図表1-24)。

図表1-24 別れるにあたっての暴力や嫌がらせ有無(全体)  
 <「離婚」「未婚」によりひとり親になった人>

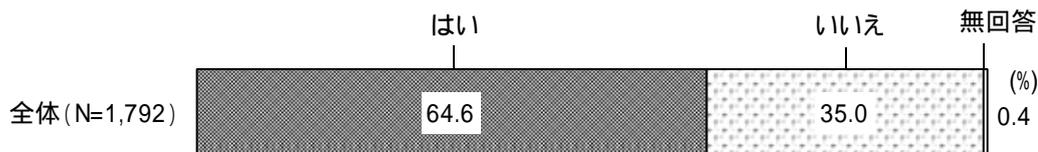


## 2 仕事について

### (1) ひとり親になるまで仕事をしてきたか(問15)

ひとり親になるまで仕事をしてきた人は 64.6%で、していなかったケース(35.0%)を上回っている(図表2-1)。

図表2-1 ひとり親になるまで仕事をしてきたか(全体)



### (2) 雇用形態(問15-1)

ひとり親になるまで仕事をしてきた人に雇用形態をたずねたところ、「パート・アルバイト(38.8%)」が最も多く、これに「正社員・正規職員(32.5%)」「自営業(13.2%)」が続いている。(図表2-2)

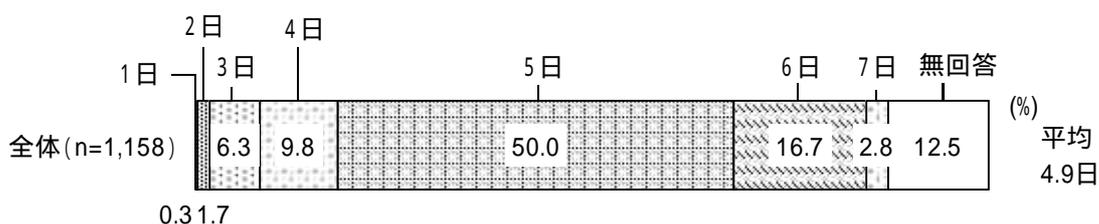
図表2-2 雇用形態(全体) <ひとり親になるまで仕事をしてきた人>



### (3) 1週間あたりの就労日(問15-2)

ひとり親になるまで仕事をしてきた人に1週間あたりの就労日をたずねたところ、「5日(50.0%)」が最も多く、これに「6日(16.7%)」が続いている。(図表2-3)

図表2-3 1週間あたりの就労日(全体) <ひとり親になるまで仕事をしてきた人>



(4) 当時転職を希望していたか (問 15 - 3)

ひとり親になるまで仕事をしてきた人に当時転職を希望していたかどうかをたずねたところ、「希望していなかった」が72.0%で「希望していた」が26.3%であった(図表2 - 4)。

図表2 - 4 当時転職を希望していたか(全体) <ひとり親になるまで仕事をしてきた人>



(5) ひとり親になった後の転職状況 (問 15 - 4)

ひとり親になるまで仕事をしてきた人に転職状況をたずねたところ、「転職しなかった(42.5%)」が最も多く、これに「収入増をめざして、転職した(19.3%)」続いた。(図表2 - 5)。

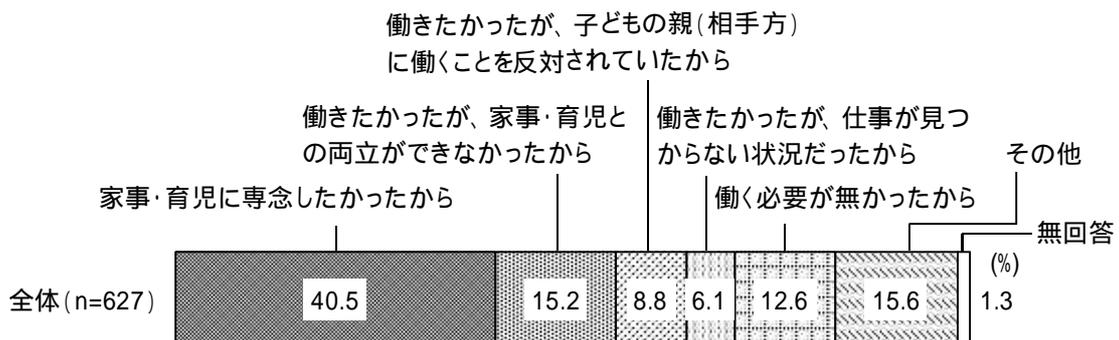
図表2 - 5 ひとり親になった後の転職状況(全体) <ひとり親になるまで仕事をしてきた人>



(6) ひとり親になるまで仕事をしていなかった理由 (問 15 - 5)

ひとり親になるまで仕事をしていなかった人にその理由をたずねたところ、「家事・育児に専念したかったから(40.5%)」が最も多く、これに「働きたかったが、家事・育児との両立ができなかったから(15.2%)」が続いた。(図表2 - 6)。

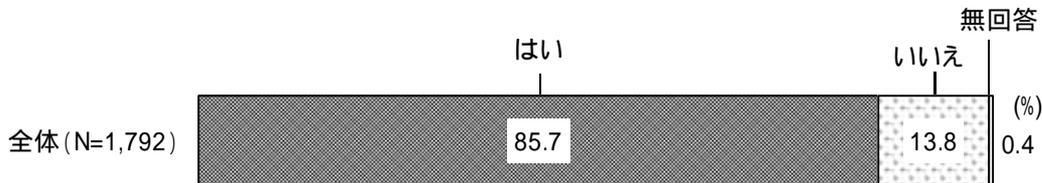
図表2 - 6 ひとり親になるまで仕事をしていなかった理由(全体) <ひとり親になるまで仕事をしていなかった人>



## (7) 現在、仕事をしているか (問 16)

現在仕事をしているひとり親は 85.7%で、仕事をしていない人 (13.8%) を大きく上回っている (図表 2 - 7)。

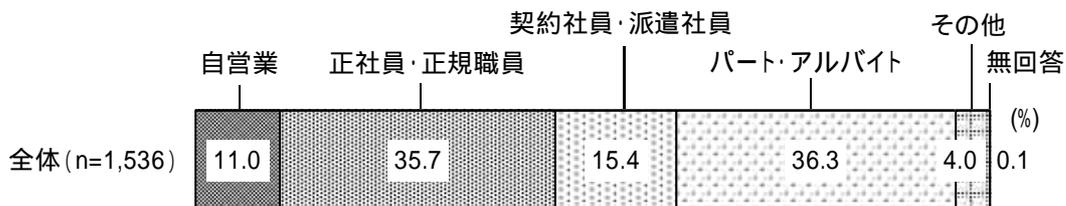
図表 2 - 7 現在仕事をしているか (全体)



## (8) 雇用形態 (問 16 - 1)

現在仕事をしている人にその雇用形態をたずねたところ、「パート・アルバイト (36.3%)」、「正社員・正規職員 (35.7%)」が多く、「契約社員・派遣社員」は 15.4%、「自営業」は 11.0%であった (図表 2 - 8)。

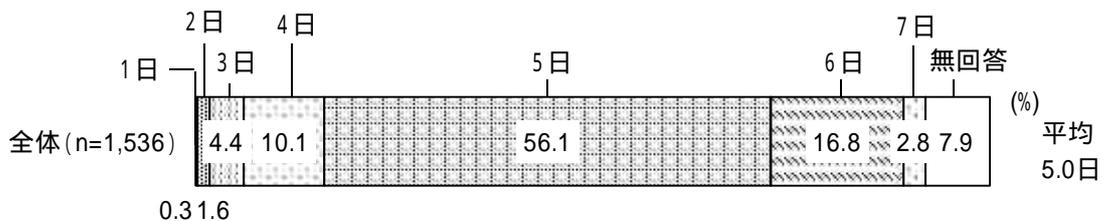
図表 2 - 8 雇用形態 (全体) &lt; 現在仕事をしている人 &gt;



## (9) 1週間あたりの就労日 (問 16 - 2)

現在仕事をしている人に1週間の就労日をたずねたところ、「5日 (56.1%)」が最も多く、これに「6日 (16.8%)」、「4日 (10.1%)」が続いている (図表 2 - 9)。

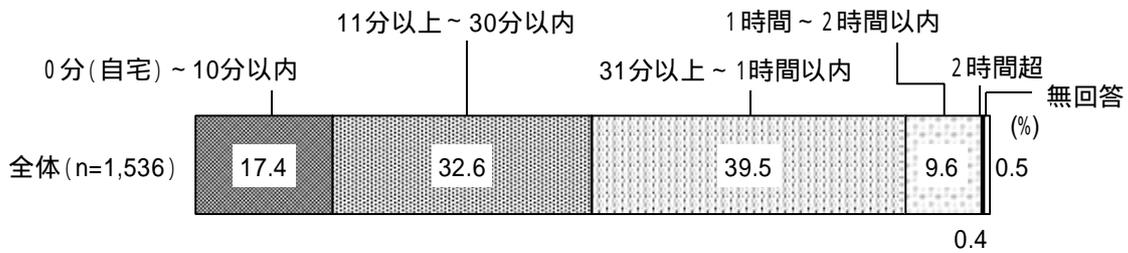
図表 2 - 9 1週間当たりの就労日 (全体) &lt; 現在仕事をしている人 &gt;



(10) 片道の通勤時間 (問 16 - 3)

片道の通勤時間は「31分以上～1時間以内(39.5%)」が最も多く、これに「11分以上～30分以内(32.6%)」が続いている(図表2-10)。

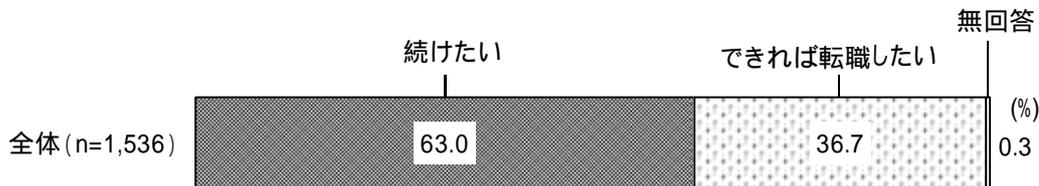
図表2-10 片道の通勤時間(全体) <現在仕事をしている人>



(11) 現在の仕事の継続意向 (問 16 - 4)

現在の仕事の継続意向は、「続けたい」とする人が63.0%で、「できれば転職をしたい(36.7%)」を上回った(図表2-11)。

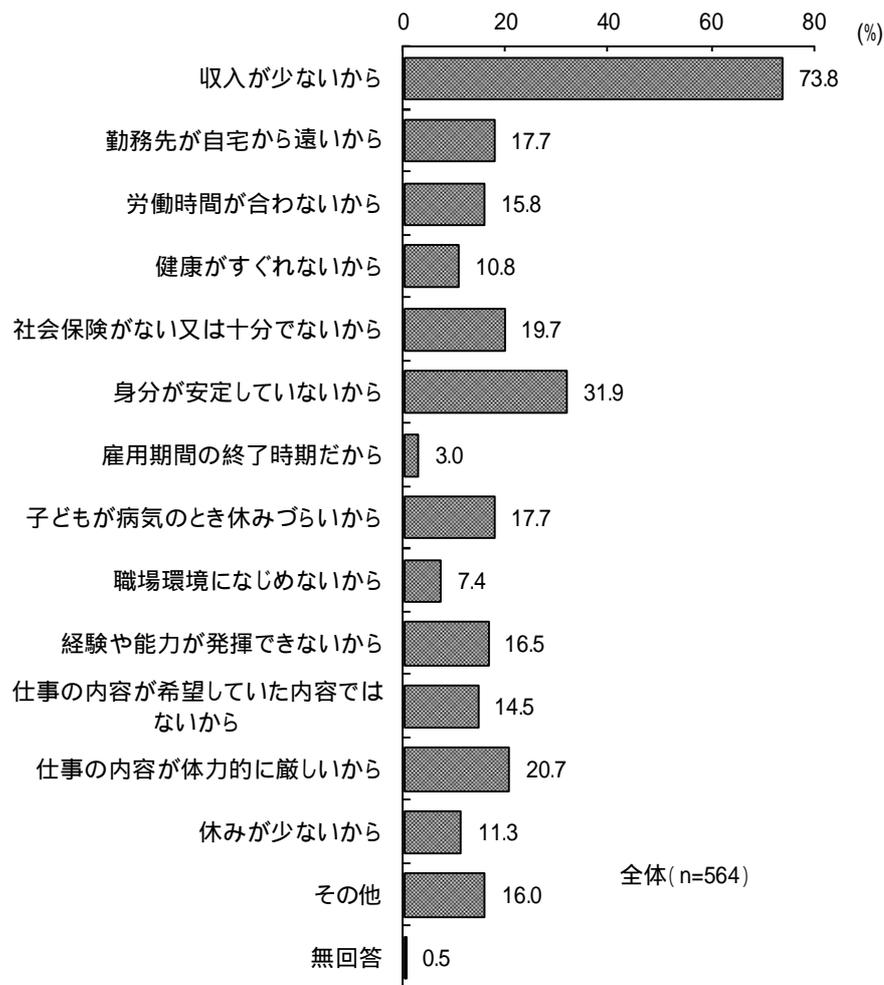
図表2-11 現在の仕事の継続意向(全体) <現在仕事をしている人>



## (12) 転職したい理由 (問 16 - 4 - 1)

転職意向のある人に転職したい理由を複数回答でたずねたところ、「収入が少ないから (73.8%)」が最も多く、これに「身分が安定していないから (31.9%)」、「仕事の内容が体力的に厳しいから (20.7%)」が続いている (図表 2 - 12)。

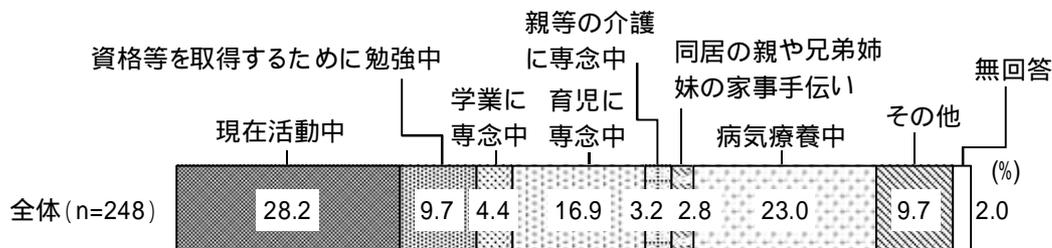
図表 2 - 12 転職したい理由 (全体：複数回答) &lt;できれば転職をしたい人&gt;



(13) 現在の状況 (問 16 - 5)

現在仕事をしていない人に、現在の状況をたずねたところ「現在活動中 (28.2%)」、「病気療養中 (23.0%)」が多く、これに「育児に専念中 (16.9%)」が続いている (図表 2 - 13)。

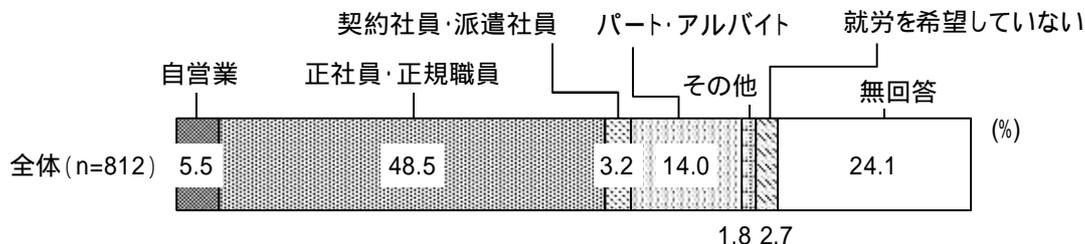
図表 2 - 13 現在の状況 (全体) < 現在仕事をしていない人 >



(14) 今後、希望する雇用形態 (問 16 - 6)

現在仕事をしていない人、転職希望の人に、今後希望する雇用形態をたずねたところ、「正社員・正規職員 (48.5%)」が最も多かった (図表 2 - 14)。

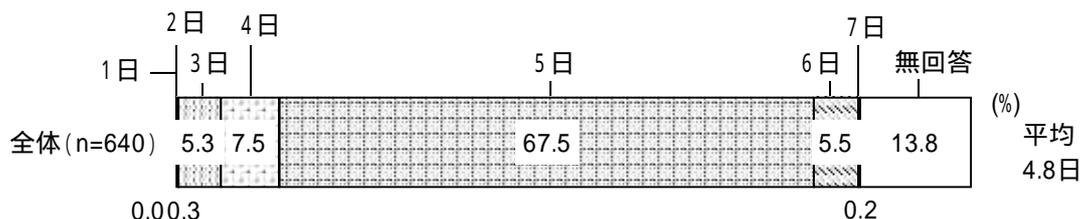
図表 2 - 14 今後希望する雇用形態 (全体) < 現在仕事をしていない人、転職希望の人 >



(15) 1週間あたりの就労日 (問 16 - 6 - 1)

今後希望する就労形態として、「1.自営業」「2.正社員・正規職員」「3.契約社員・派遣社員」「4.パート・アルバイト」を選んだ人に対して1週間当たりの希望就労日をたずねたところ、「5日 (67.5%)」が最も多かった (図表 2 - 15)。

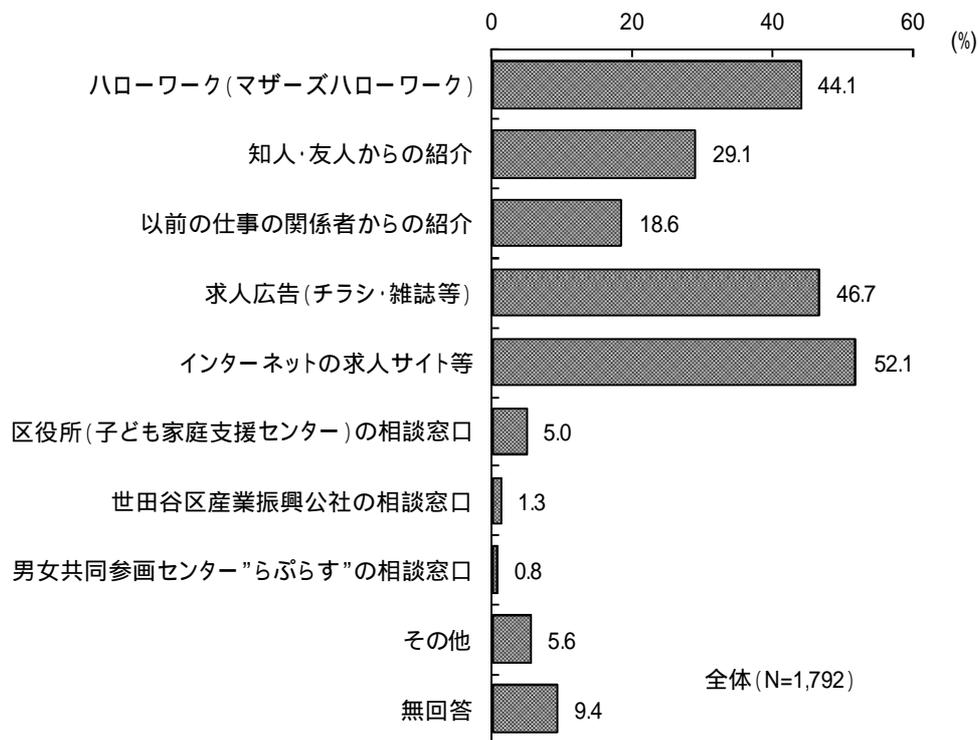
図表 2 - 15 1週間当たりの就労日 (全体) < 問 16-6 の「1.自営業」「2.正社員・正規職員」「3.契約社員・派遣社員」「4.パート・アルバイト」を選んだ人 >



## (16) 情報入手方法 (問 17)

仕事の情報入手経路は、「インターネットの求人サイト等(52.1%)」, 「求人広告(チラシ・雑誌等(46.7%))」, 「ハローワーク(マザーズハローワーク)(44.1%)」, 「知人・友人からの紹介(29.1%)」の順で多くなっている(図表2-16)。

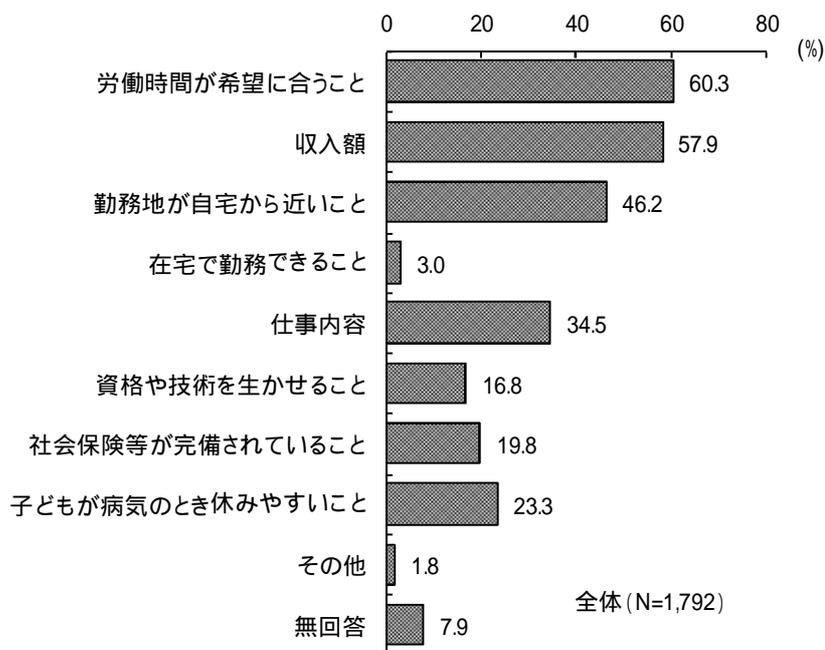
図表2-16 情報入手方法(全体:複数回答)



(17) 仕事を選ぶ優先度 (問 18)

仕事を選ぶときの優先度としては、「労働時間が希望に合うこと (60.3%)」、「収入額 (57.9%)」、「勤務地が自宅から近いこと (46.2%)」、「仕事内容 (34.5%)」の順で多くなっている (図表 2 - 17)。

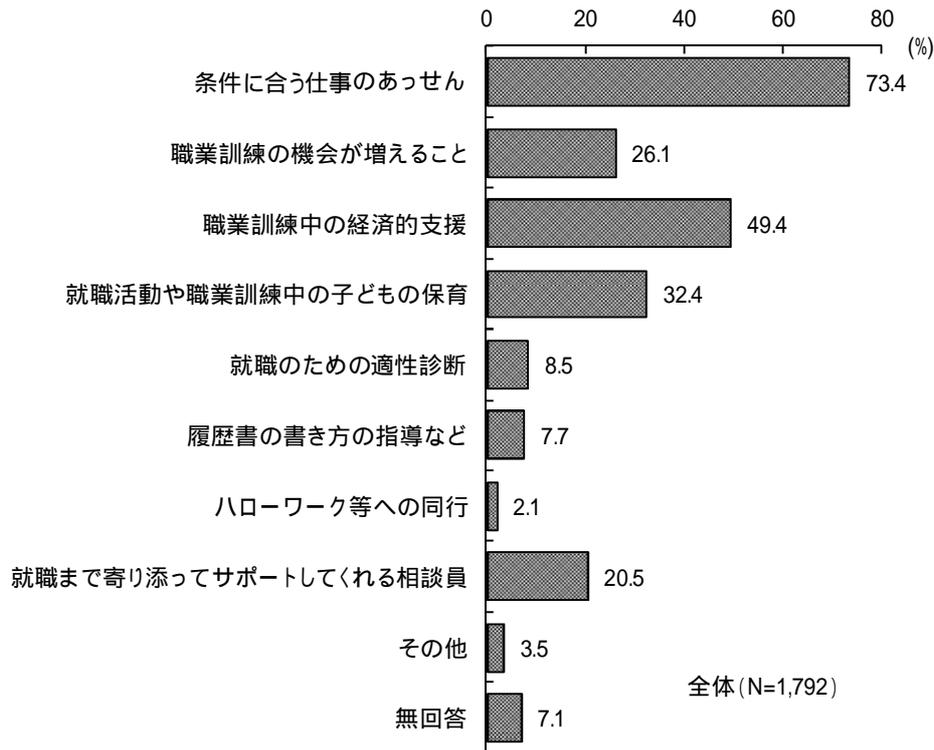
図表 2 - 17 仕事を選ぶ優先度 (全体：複数回答 (3つまで))



## (18) 新しく仕事を始めるときに必要な支援 (問 19)

新しく仕事を始めるときに必要な支援としては、「条件に合う仕事があっせん (73.4%)」、「職業訓練中の経済的支援 (49.4%)」、「就職活動や職業訓練中の子どもの保育 (32.4%)」、「就職まで寄り添ってサポートしてくれる相談員 (20.5%)」などが多くなっている (図表 2 - 18)。

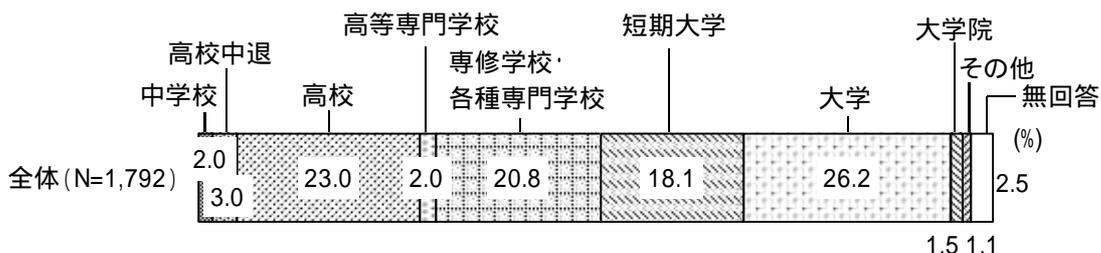
図表 2 - 18 新しく仕事を始めるときに必要な支援 (全体：複数回答)



## (19) 最終学歴 (問 20)

ひとり親の最終学歴は「大学 (26.2%)」、「高校 (23.0%)」、「専修学校・各種専門学校 (20.8%)」などが多い (図表 2 - 19)。

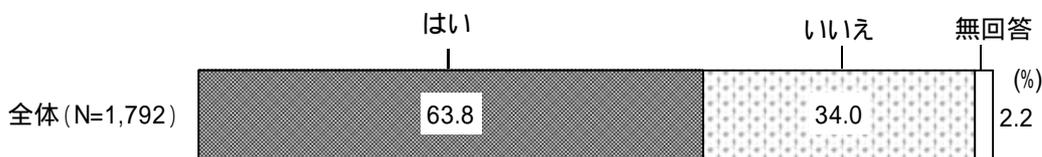
図表 2 - 19 最終学歴 (全体)



(20) 仕事に役立つような資格や技術を持っているか (問 21)

仕事に役立つような資格や技術を持っている人は全体の 63.8%であった (図表 2 - 20)。

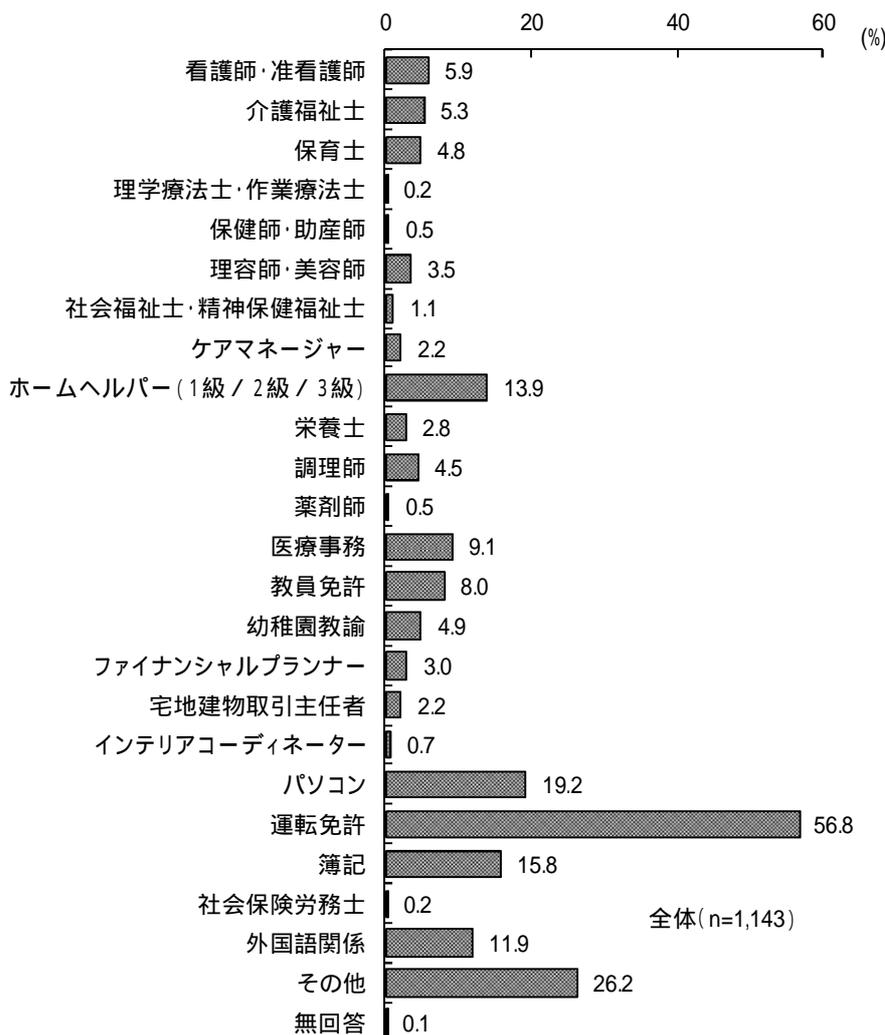
図表 2 - 20 仕事に役立つような資格や技術を持っているか (全体)



(21) 持っている資格・技術 (問 21 - 1)

資格・技術を持っている人に対してその内容をたずねたところ「運転免許 (56.8%)」, 「パソコン (19.2%)」, 「簿記 (15.8%)」, 「ホームヘルパー (1級/2級/3級) (13.9%)」などが多かった (図表 2 - 21)。

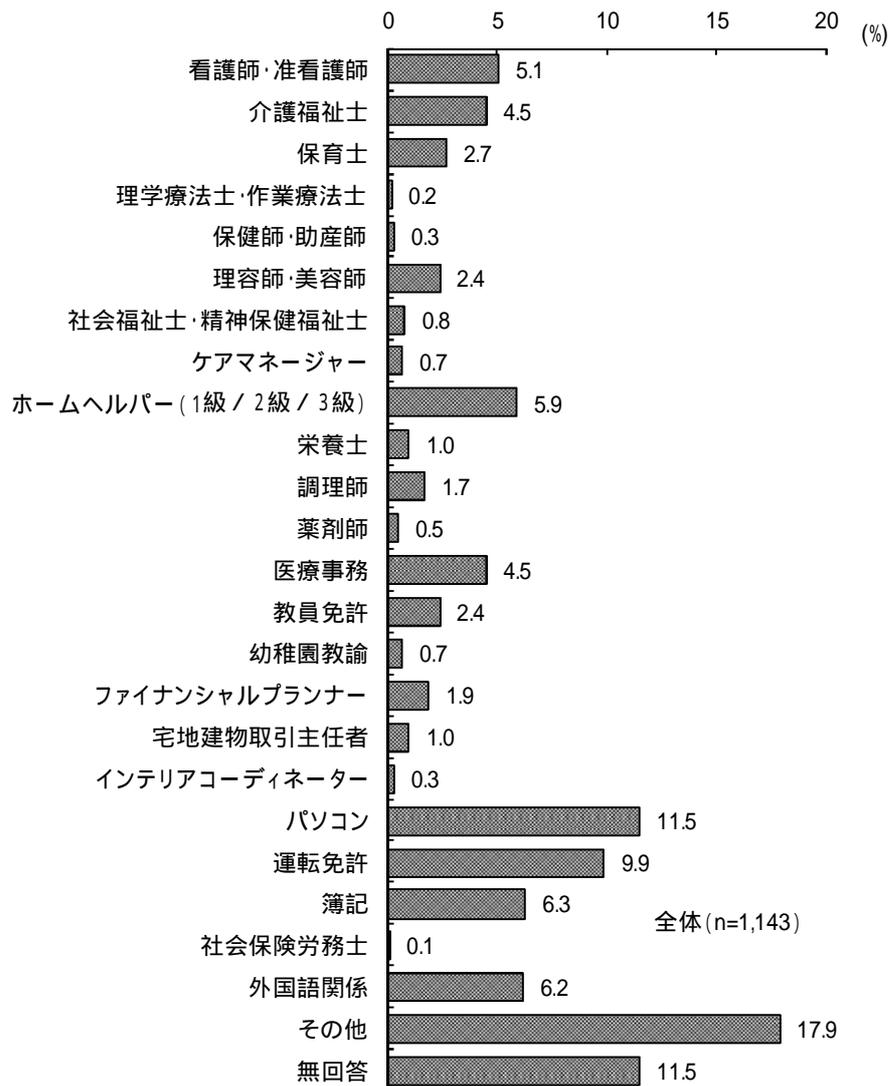
図表 2 - 21 持っている資格・技術 (全体：複数回答)  
 <仕事に役立つような資格・技術を持っている人>



## (22) 最も役に立っている資格・技術 (問 21 - 2)

資格・技術を持っている人に対して、最も役に立っている資格・技術をたずねたところ「パソコン (11.5%)」、「運転免許 (9.9%)」、「簿記 (6.3%)」、「外国語関係 (6.2%)」などが多かった (図表 2 - 22)。

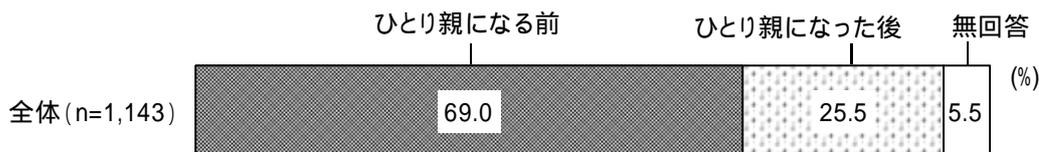
図表 2 - 22 最も役に立っている資格・技術 (全体：複数回答)  
 < 仕事に役立つような資格・技術を持っている人 >



(23) 最も役に立っている資格・技術を取得した時期 (問 21 - 3)

資格・技術を持っている人に対して、最も役に立っている資格・技術を取得した時期をたずねたところ「ひとり親になる前 (69.0%)」が「ひとり親になった後 (25.5%)」を上回った (図表 2 - 23)。

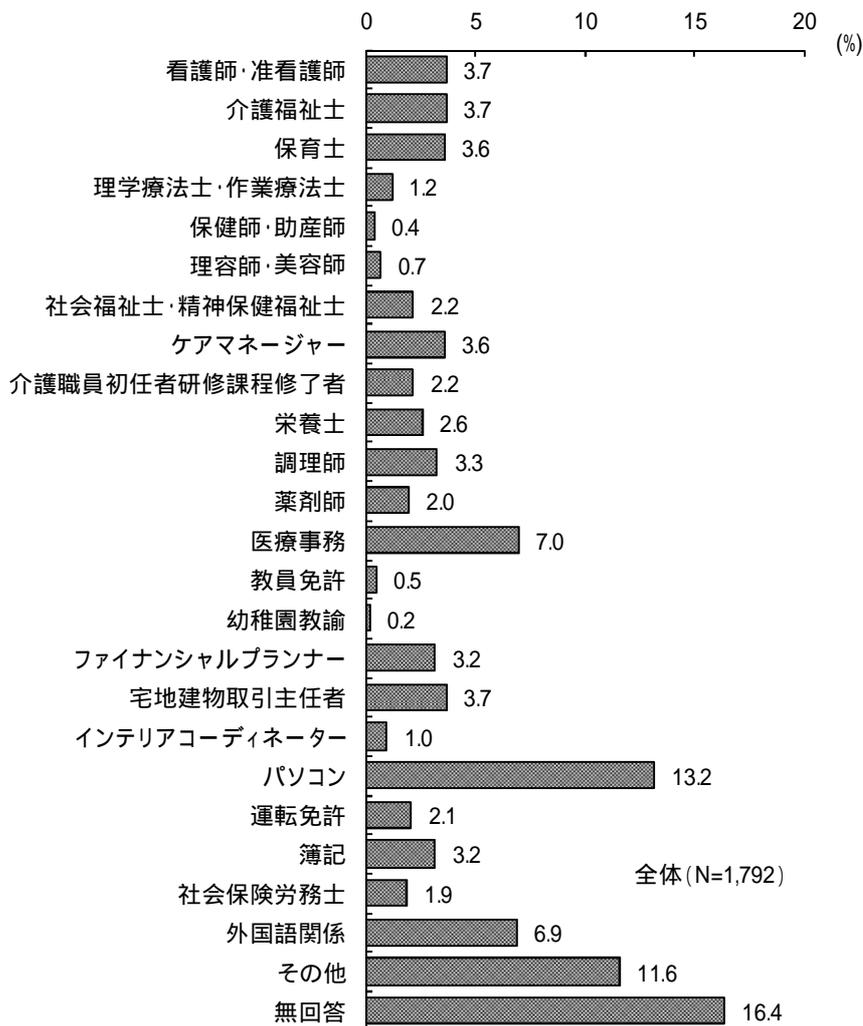
図表 2 - 23 最も役に立っている資格・技術を取得した時期  
 < 仕事に役立つような資格・技術を持っている人 >



(24) これから取得したい資格・技術 (問 21 - 4)

これから取得したい資格・技術で多かったのは、「パソコン (13.2%)」、「医療事務 (7.0%)」、「外国語関係 (6.9%)」などであった (図表 2 - 24)。

図表 2 - 24 これから取得したい資格・技術 (全体：複数回答)  
 < 仕事に役立つような資格・技術を持っている人 >

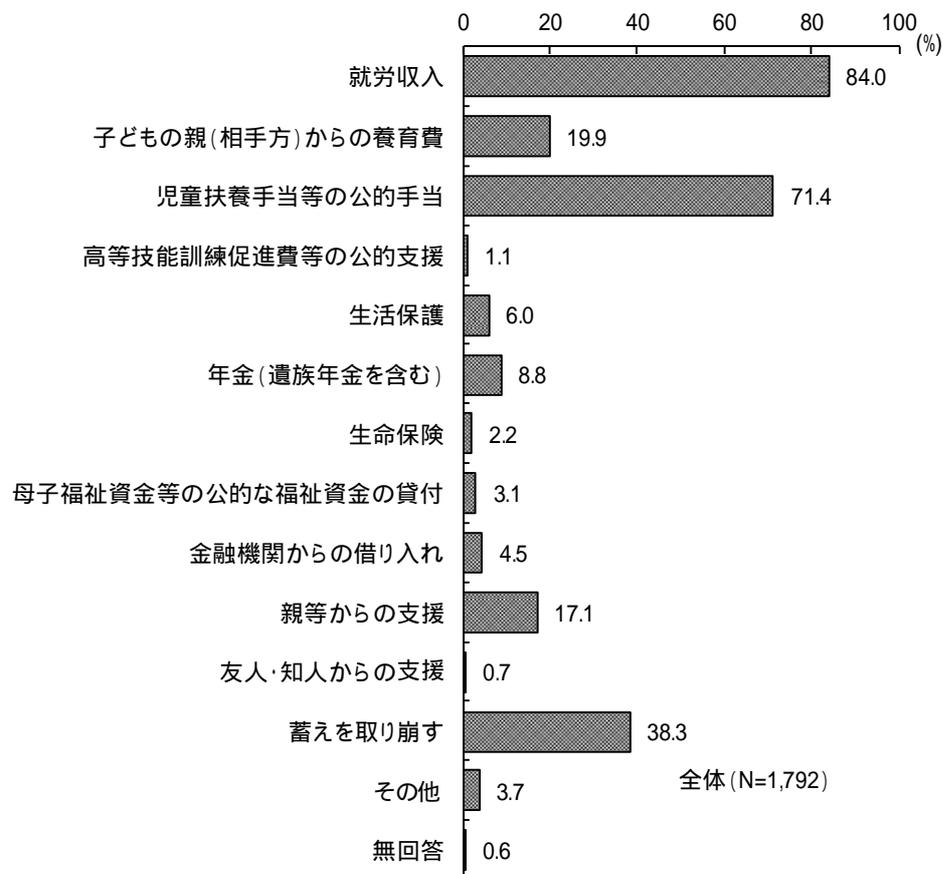


### 3 経済状況について

#### (1) 生計を立てている収入(問22)

生計を立てている収入で最も多かったのは「就労収入(84.0%)」で、これに「児童扶養手当等の公的手当(71.4%)」、「蓄えを取り崩す(38.3%)」、「子どもの親(相手方)からの養育費(19.9%)」が続いている(図表3-1)。

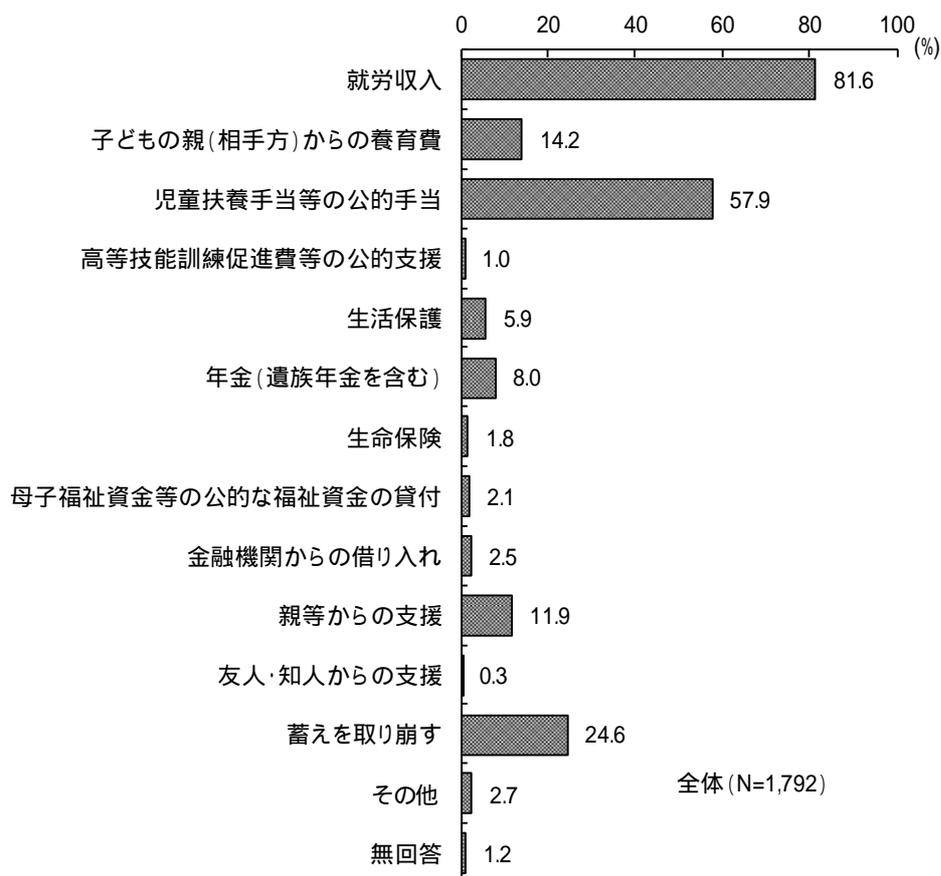
図表3-1 生計を立てている収入(全体:複数回答)



## (2) 大きな割合を占める収入 (問 23)

生計を立てている収入のうち大きな割合を占める収入で最も多かったのは「就労収入 (81.6%)」で、これに「児童扶養手当等の公的手当 (57.9%)」、「蓄えを取り崩す (24.6%)」、「親等からの支援 (11.9%)」が続いている (図表 3 - 2 )

図表 3 - 2 大きな割合を占める収入 (全体：複数回答 (3つまで))



## (3) 年間の世帯の総収入 (問 24)

世帯の年間総収入は「200～250万円未満(15.5%)」, 「250～300万円未満(15.1%)」, 「150～200万円未満(12.2%)」, 「300～350万円未満(10.6%)」, 「100～150万円未満(10.3%)」などが多くなっている(図表3-3)

図表3-3 世帯の年間総収入(全体)

	0 5 0 万円 未満	5 0 0 1 0 0 万円 未満	1 0 0 5 0 0 万円 未満	1 5 0 2 0 0 万円 未満	2 0 0 2 5 0 0 万円 未満	2 5 0 3 0 0 0 万円 未満	3 0 0 3 5 0 0 万円 未満	3 5 0 4 0 0 0 万円 未満	4 0 0 4 5 0 0 万円 未満	4 5 0 5 0 0 0 万円 未満	5 0 0 5 5 0 0 万円 未満	5 5 0 6 0 0 0 万円 未満	6 0 0 6 5 0 0 万円 未満	6 5 0 7 0 0 0 万円 未満	7 0 0 7 5 0 0 万円 未満	7 5 0 8 0 0 0 万円 未満	8 0 0 万円 以上	無 回 答
全 体 (N=1,792)	2.6	5.4	10.3	12.2	15.5	15.1	10.6	7.9	4.9	3.0	2.4	1.9	0.9	0.7	0.8	0.1	0.6	5.2

## (4) 年間の総収入のうちの就労収入 (問 25)

就労収入は、「100～150万円未満(15.9%)」, 「0～50万円未満(13.8%)」, 「200～250万円未満(12.9%)」, 「150～200万円未満(12.6%)」, 「50～100万円未満(10.6%)」などが多くなっている(図表3-4)

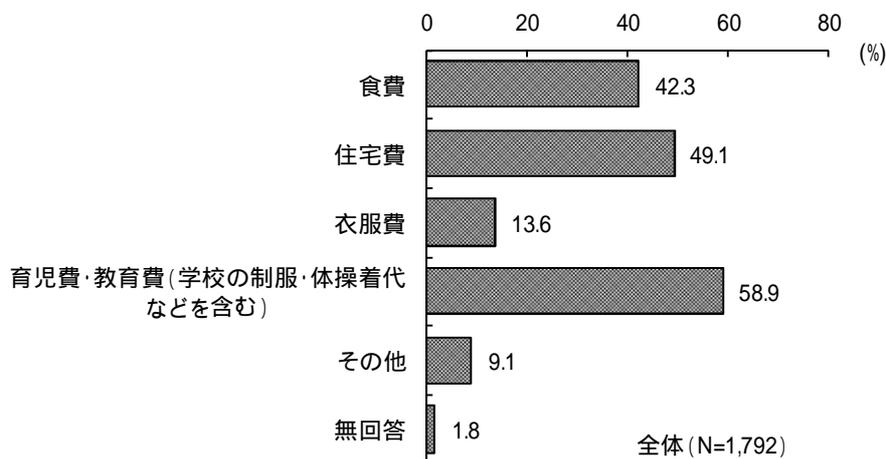
図表3-4 年間収入のうちの就労収入(全体)

	0 5 0 万円 未満	5 0 0 1 0 0 万円 未満	1 0 0 5 0 0 万円 未満	1 5 0 2 0 0 万円 未満	2 0 0 2 5 0 0 万円 未満	2 5 0 3 0 0 0 万円 未満	3 0 0 3 5 0 0 万円 未満	3 5 0 4 0 0 0 万円 未満	4 0 0 4 5 0 0 万円 未満	4 5 0 5 0 0 0 万円 未満	5 0 0 5 5 0 0 万円 未満	5 5 0 6 0 0 0 万円 未満	6 0 0 6 5 0 0 万円 未満	6 5 0 7 0 0 0 万円 未満	7 0 0 7 5 0 0 万円 未満	7 5 0 8 0 0 0 万円 未満	8 0 0 万円 以上	無 回 答
全 体 (N=1,792)	13.8	10.6	15.9	12.6	12.9	8.5	8.0	4.9	3.1	2.2	2.0	0.9	0.8	0.2	0.0	0.1	0.2	3.1

(5) 家計を圧迫している支出 (問 26)

家計を圧迫している支出としては、「育児費・教育費(学校の制服・体操着代などを含む) (58.9%)」、「住居費(49.1%)」、「食費(42.3%)」などが多い(図表3-5-1)。

図表3-5-1 家計を圧迫している支出(全体:複数回答)

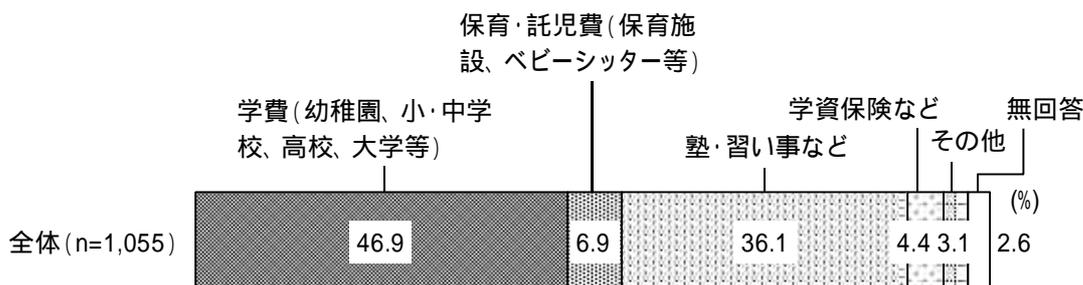


(6) 育児費・教育費のうち負担の大きいもの (問 26-1)

育児費・教育費のうち負担の大きいものは、「学費(幼稚園、小・中学校、高校、大学等) (46.9%)」、「塾・習い事など(36.1%)」である(図表3-6)。

図表3-6 育児費・教育費のうち負担の大きいもの(全体)

<家計を圧迫している支出として「育児費・教育費(学校の制服・体操着代などを含む)を選んだ人>

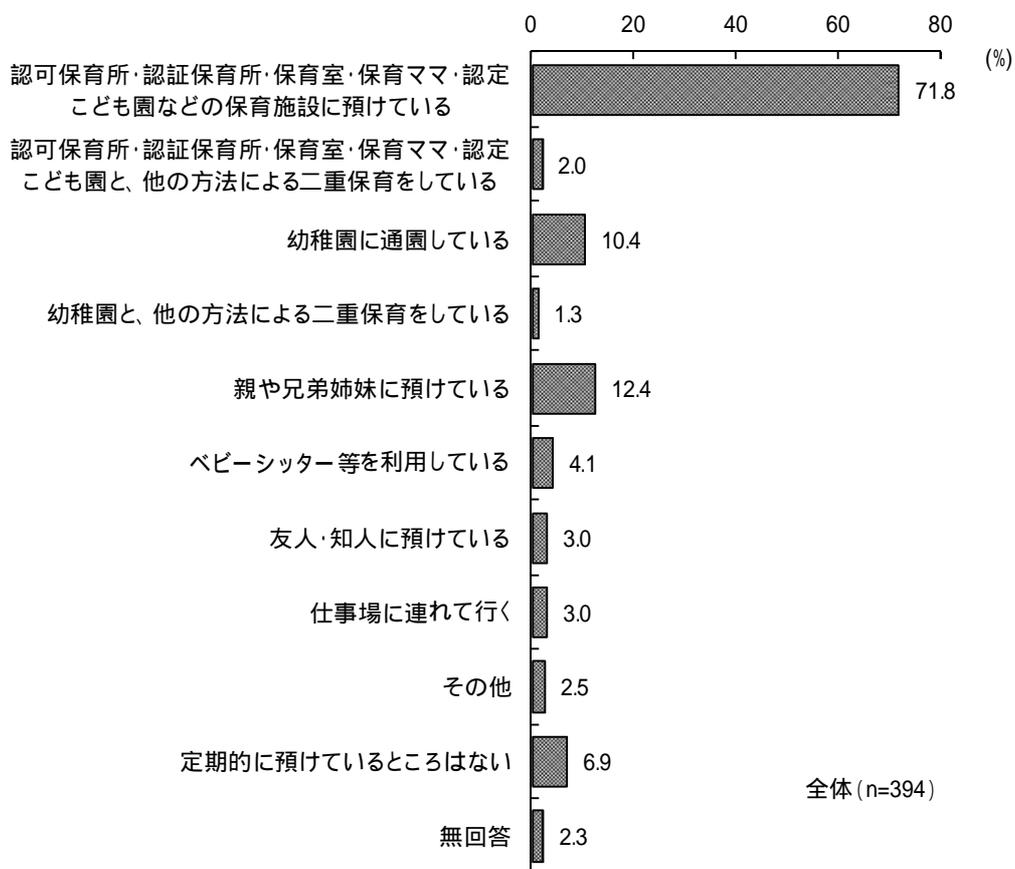


## 4 子育てについて

### (1) 定期的な子どもの預け先(問27-1)

就学前の子どもがいる人に、定期的な子供の預け先をたずねたところ、「認可保育所・認証保育所・保育室・保育ママ・認定こども園などの保育施設に預けている(71.8%)」が最も多く、これに「親や兄弟姉妹に預けている(12.4%)」、「幼稚園に通園している(10.4%)」が続いている(図表4-1)。

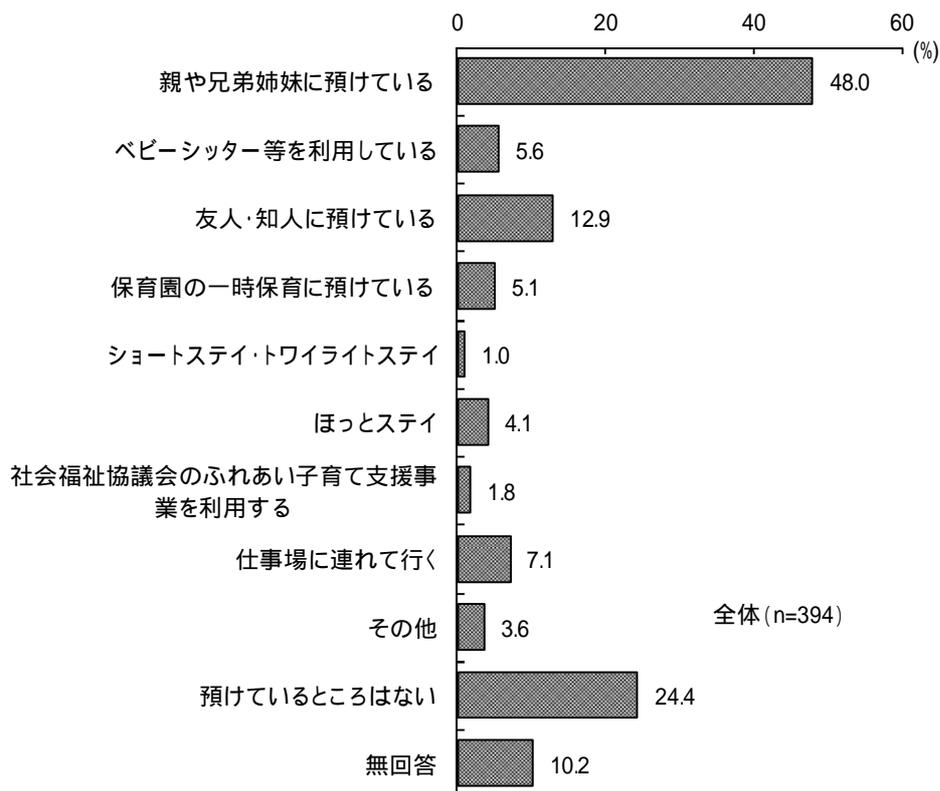
図表4-1 定期的な子どもの預け先(全体:複数回答)<就学前の子どもがいる人>



(2) 必要に応じた子どもの預け先 (問 27 - 2)

就学前の子どもがいる人に、定期的ではなく必要に応じて預けている預け先をたずねたところ、「親や兄弟姉妹に預けている (48.0%)」が最も多く、これに「友人・知人に預けている (12.9%)」が続いている。「預けているところはない」とする回答も 24.4%あった (図表 4 - 2)。

図表 4 - 2 必要に応じた子どもの預け先 (全体：複数回答) <就学前の子どもがいる人>

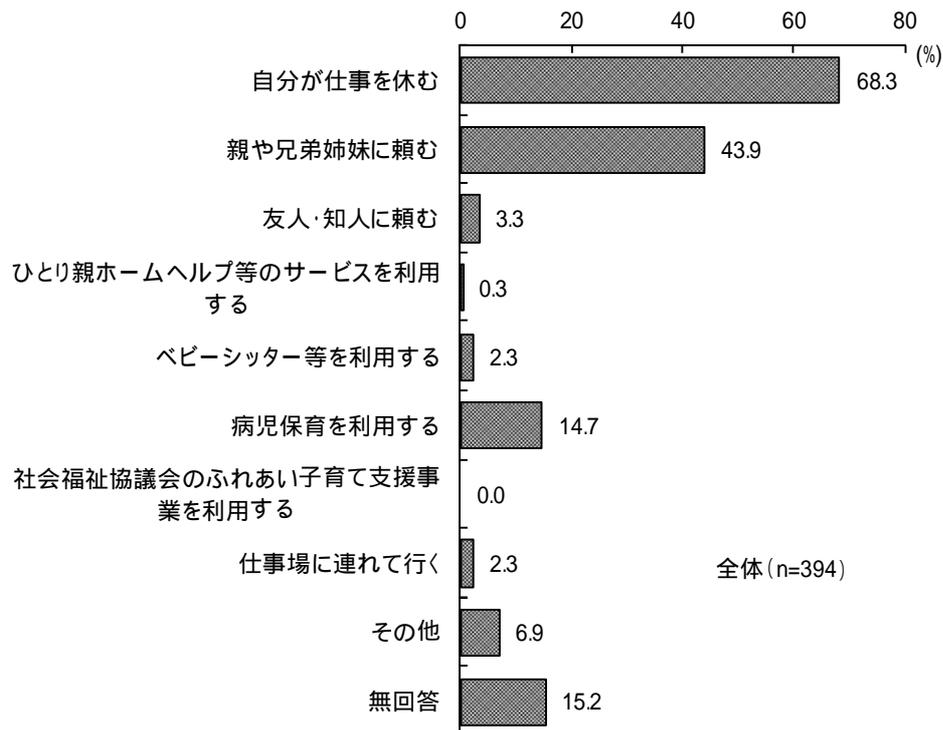


## (3) 子どもが病気の時の世話(問28-1)

## 就学前の子どもの場合

就学前の子どもがいる人に、子どもが病気の時の預け先をたずねたところ、「自分が仕事を休む(68.3%)」「親や兄弟姉妹に頼む(43.9%)」が最も多く、これに「病児保育を利用する(14.7%)」が続いている。(図表4-3-1)

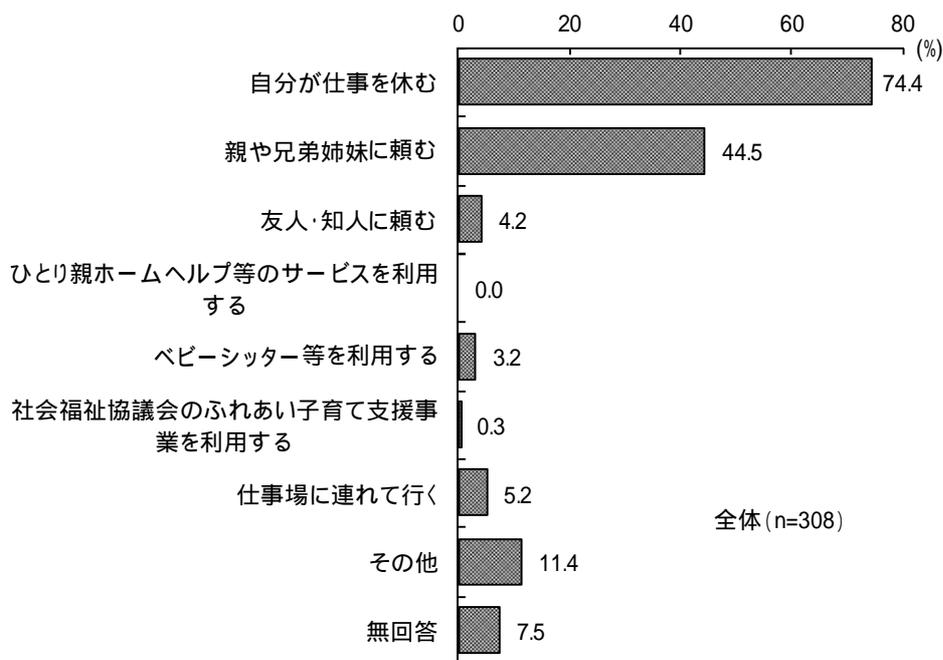
図表4-3-1 子どもが病気の時の預け先/就学前(全体:複数回答)&lt;就学前の子どもがいる人&gt;



**小学校1～3年生の子どもの場合**

小学校1～3年生の子どもがいる人に、子どもが病気の時の預け先をたずねたところ、「自分が仕事を休む(74.4%)」が最も多く、これに「親や兄弟姉妹に頼む(44.5%)」が続いている(図表4-3-2)。

図表4-3-2 子どもが病気の時の対応/小学校1～3年生(全体:複数回答)  
<小学校1～3年生の子どもがいる人>

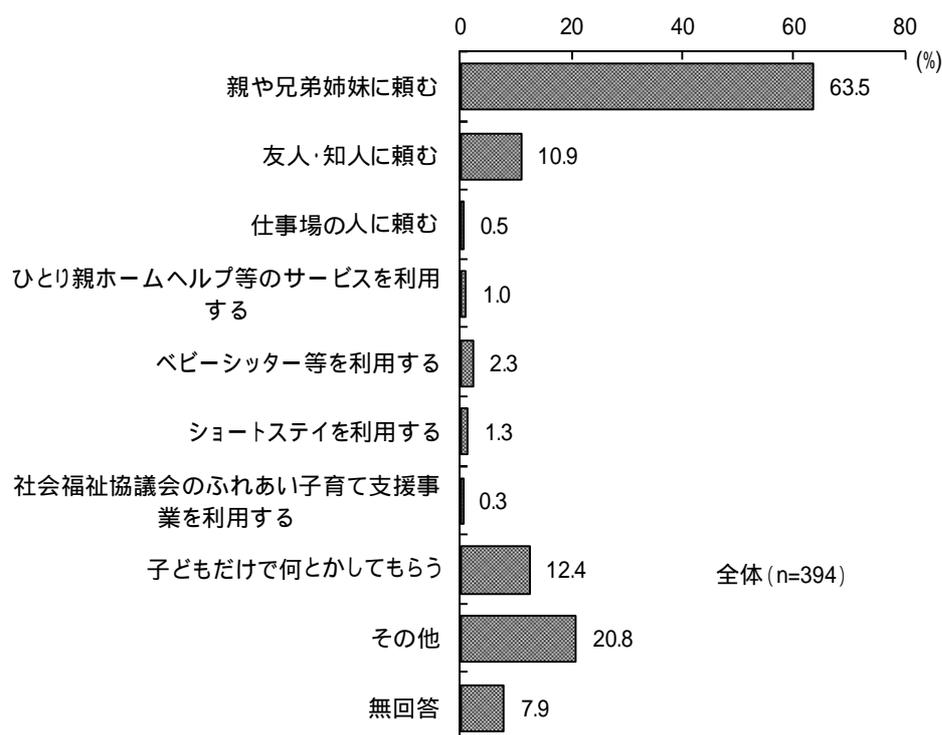


## (4) 病気で子どもの世話ができない時(問28-2)

## 就学前の子どもの場合

就学前の子どもがいる人に対して、自分が病気で子どもの世話ができない時の対応をたずねたところ、「親や兄弟姉妹に頼む(63.5%)」が最も多く、これに「子どもだけで何とかしてもらおう(12.4%)」、「友人・知人に頼む(10.9%)」が続いた(図表4-4-1)。

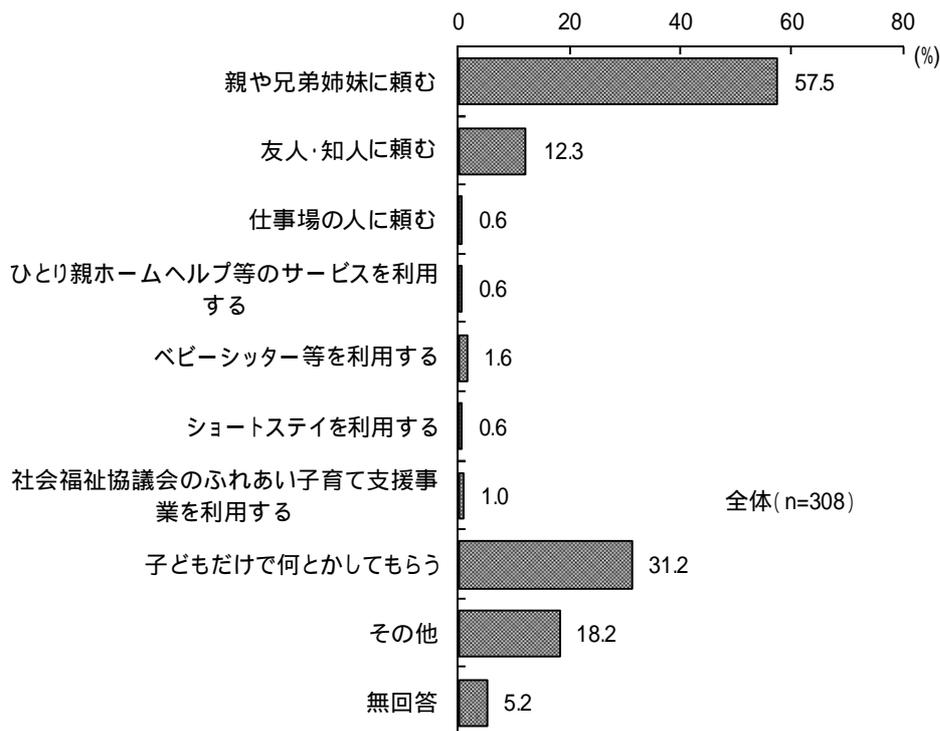
図表4-4-1 病気で子どもの世話ができない時/就学前(全体:複数回答)  
<就学前の子どもがいる人>



小学校1～3年生の子どもの場合

小学校1～3年生の子どもがいる人に対して、自分が病気で子どもの世話ができない時の対応をたずねたところ、「親や兄弟姉妹に頼む(57.5%)」が最も多く、これに「子どもだけで何とかしてもらおう(31.2%)」、「友人・知人に頼む(12.3%)」が続いた(図表4-4-2)。

図表4-4-2 病気で子どもの世ができない時/就学前(全体:複数回答)  
 <小学校1～3年生の子どもがいる人>

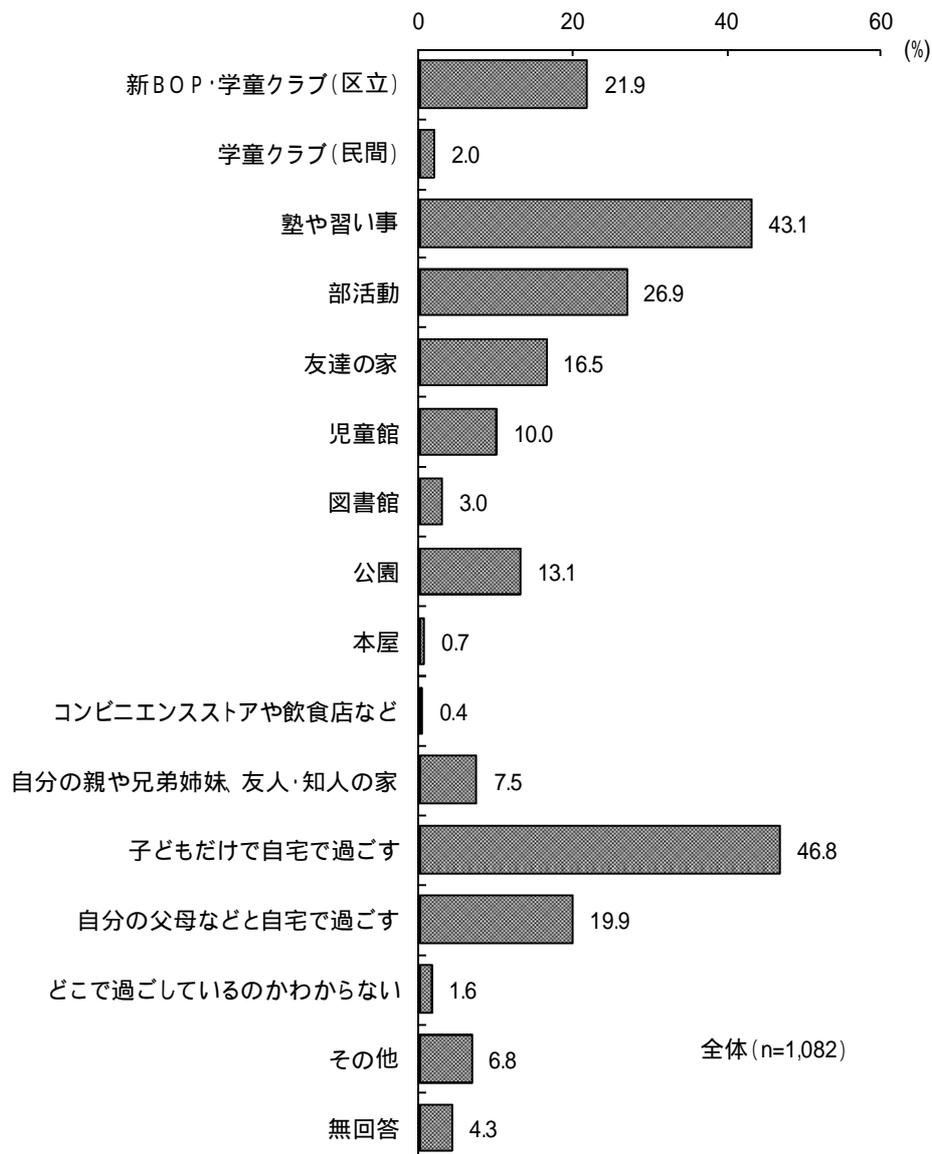


## (5) 放課後の過ごし方等

## 放課後の過ごす場所(問29-1)

小学生～中学生の子どもがいる人に対して放課後の過ごす場所をたずねたところ、「子どもだけで自宅で過ごす(46.8%)」、「塾や習い事(43.1%)」、「部活動(26.9%)」、「新BOP・学童クラブ(区立)(21.9%)」、「自分の父母などと自宅で過ごす(19.9%)」、「友人の家(16.5%)」、「公園(13.1%)」の順が多かった(図表4-5)。

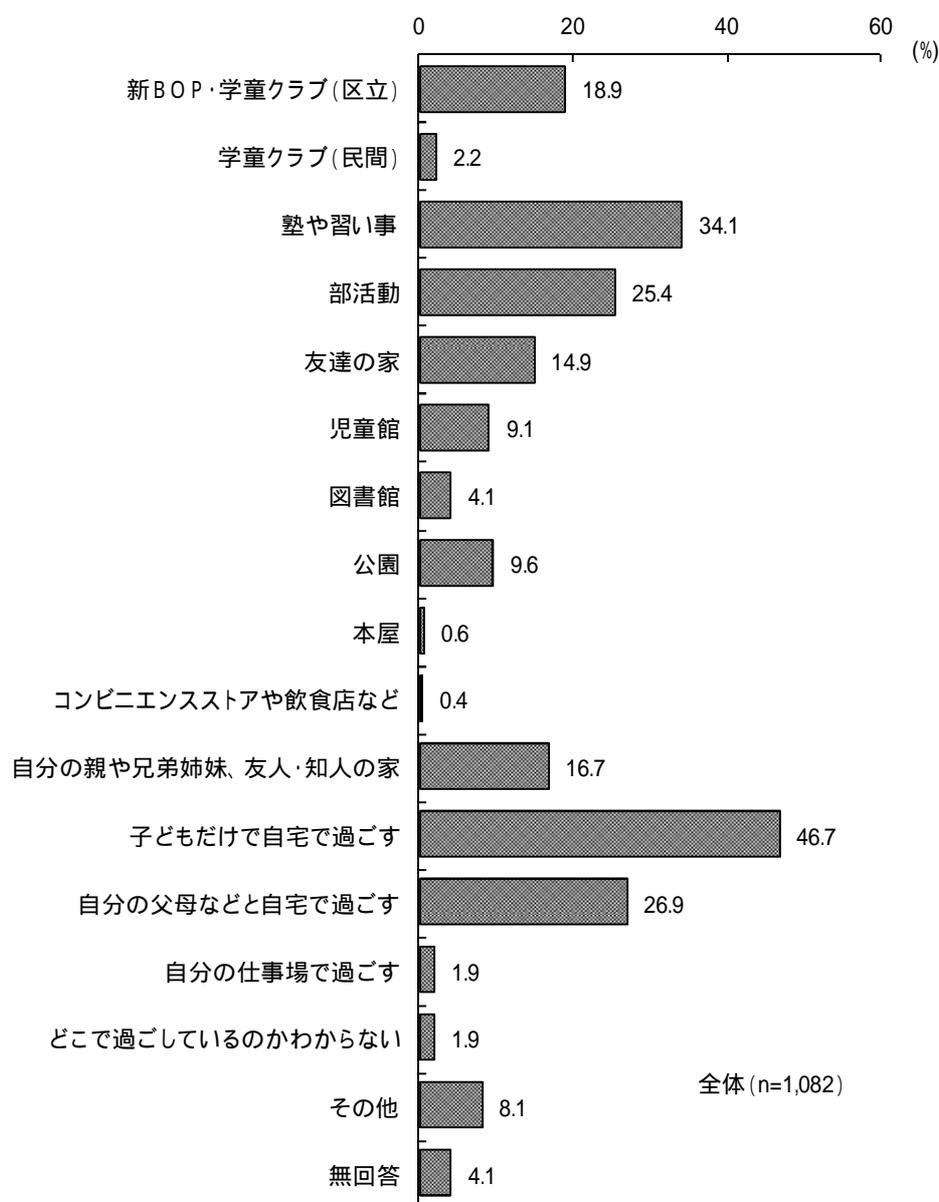
図表4-5 放課後の過ごす場所(全体:複数回答(3つまで))  
<小学生～中学生の子どもがいる人>



## (6) 夏休みなどの長期休暇中の過ごす場所 (問 29 - 2)

小学生～中学生の子どもがいる人に対して夏休み等の長期休暇中の過ごす場所をたずねたところ、「子どもだけで自宅で過ごす (46.7%)」、「塾や習い事 (34.1%)」、「自分の父母などと自宅で過ごす (26.9%)」、「部活動 (25.4%)」、「新 BOP・学童クラブ (区立) (18.9%)」、「自分の親や兄弟姉妹、友人・知人の家 (16.7%)」、「友人の家 (14.9%)」の順が多かった (図表 4 - 6)。

図表 4 - 6 夏休みなどの長期休暇中の過ごす場所 (全体：複数回答 (3つまで))  
<小学生～中学生の子どもがいる人>

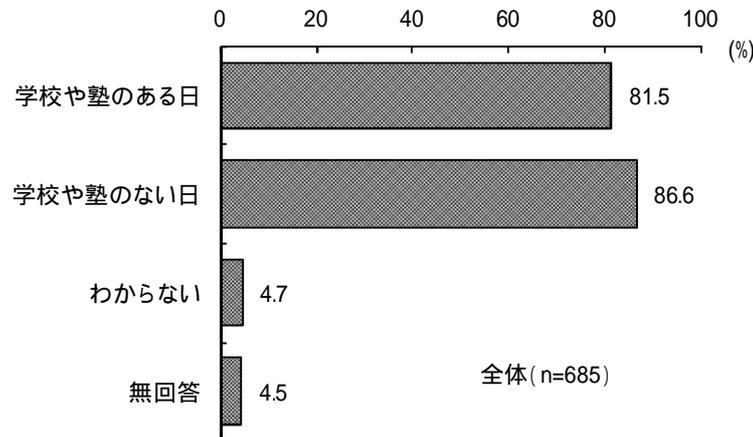


## (7) 学校や塾以外の勉強 (問 29 - 3)

## 学校や塾以外の勉強 (小学生)

小学生の子どもがいる人に学校や塾以外の勉強の状況をたずねた。「学校や塾のある日」は81.5%で、「学校や塾のない日」は86.6%であった(図表4-7-1)。

図表4-7-1 学校や塾以外の勉強時間(全体:複数回答)&lt;小学生&gt;



## 学校や塾以外の勉強時間(小学生) / 学校や塾のある日

学校や塾のある日の学校や塾以外での勉強時間の平均(小学生)は、1.3時間であった(図表4-7-2)。

図表4-7-2 学校や塾以外の勉強時間 / 学校や塾のある日(全体:複数回答)

<小学生の子どもがいて、学校や塾のある日に勉強をしている人>

	(%)											平均
	0時間	1時間以下	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上	無回答		
全体(n=558)	3.6	77.1	11.8	3.0	1.1	0.7	0.2	0.9	1.6	0.0	1.3時間	

## 学校や塾以外の勉強時間(小学生) / 学校や塾のない日

学校や塾のない日の学校や塾以外での勉強時間の平均(小学生)は、1.1時間であった(図表4-7-3)。

図表4-7-3 学校や塾以外の勉強時間 / 学校や塾のない日(全体:複数回答)

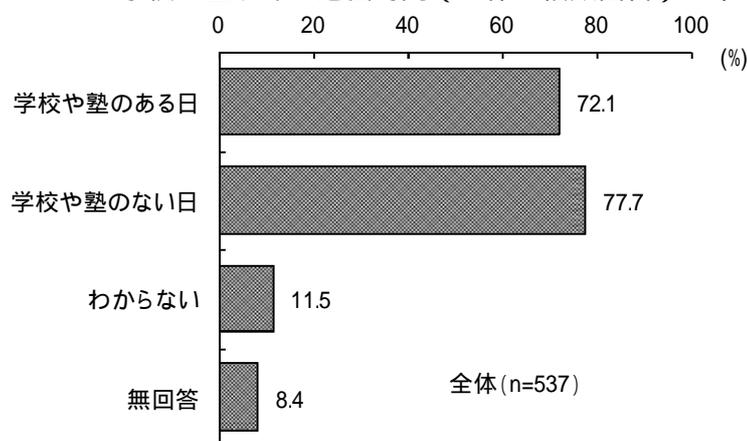
<小学生の子どもがいて、学校や塾のない日に勉強をしている人>

	(%)											平均
	0時間	1時間以下	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上	無回答		
全体(n=593)	7.9	72.8	14.5	2.5	0.8	0.2	0.7	0.0	0.5	0.0	1.1時間	

### 学校や塾以外の勉強（中学生）

中学生の子どもがいる人に学校や塾以外の勉強の状況をたずねた。「学校や塾のある日」は72.1%で、「学校や塾のない日」は77.7%であった（図表4-7-4）。

図表4-7-4 学校や塾以外の勉強時間（全体：複数回答）＜中学生＞



### 学校や塾以外の勉強時間（中学生） / 学校や塾のある日

学校や塾のある日の学校や塾以外での勉強時間の平均(中学生)は、1.5時間であった（図表4-7-2）。

図表4-7-5 学校や塾以外の勉強時間 / 学校や塾のある日（全体：複数回答）

＜中学生の子どもがいて、学校や塾のある日に勉強をしている人＞

	(% )											平均
	0時間	1時間以下	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上	無回答		
全体 (n= 387)	8.8	53.7	23.3	7.8	1.8	1.3	1.0	1.0	1.3	0.0	1.5 時間	

### 学校や塾以外の勉強時間（中学生） / 学校や塾のない日

学校や塾のない日の学校や塾以外での勉強時間の平均(中学生)は、1.7時間であった（図表4-7-6）。

図表4-7-6 学校や塾以外の勉強時間 / 学校や塾のない日（全体：複数回答）

＜中学生の子どもがいて、学校や塾のない日に勉強をしている人＞

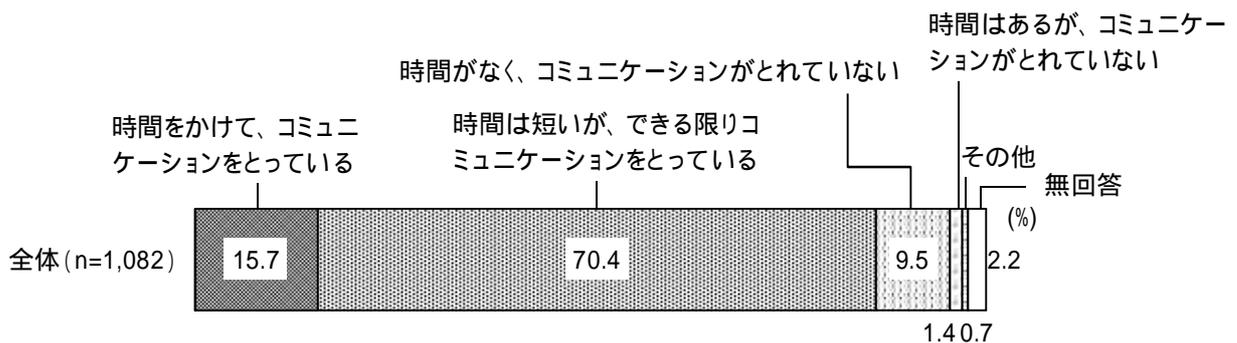
	(% )											平均
	0時間	1時間以下	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間以上	無回答		
全体 (n= 417)	8.4	48.7	20.1	10.8	5.0	2.4	2.4	0.7	1.4	0.0	1.7 時間	

## (8) 子どもとのコミュニケーションについて(問29-4)

小中学生の子どものいる人に対して、子どもとのコミュニケーションについてたずねたところ、「時間は短い、できる限りコミュニケーションをとっている(70.4%)」が最も多く、これに「時間をかけて、コミュニケーションをとっている(15.7%)」、「時間がなく、コミュニケーションがとれていない(9.5%)」が続いている(図表4-8)。

図表4-8 子どもとのコミュニケーションについて(全体)

&lt;小学生~中学生の子どものいる人&gt;

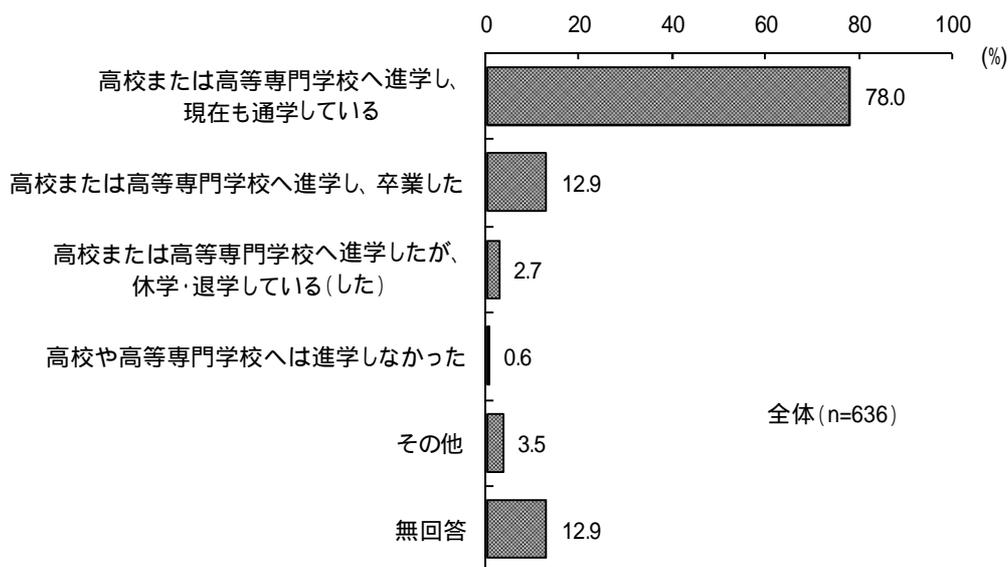


## (9) 高校または高等専門学校への進学、通学状況(問30)

中学卒業後の子どもがいる人に対して、高校または高等専門学校への進学、通学状況をたずねたところ、「高校または高等専門学校へ進学し、現在も通学している(78.0%)」が最も多く「高校または高等専門学校へ進学し、卒業した(12.9%)」がこれに続いている(図表4-9)。

図表4-9 高校または高等専門学校への進学、通学状況(全体:複数回答)

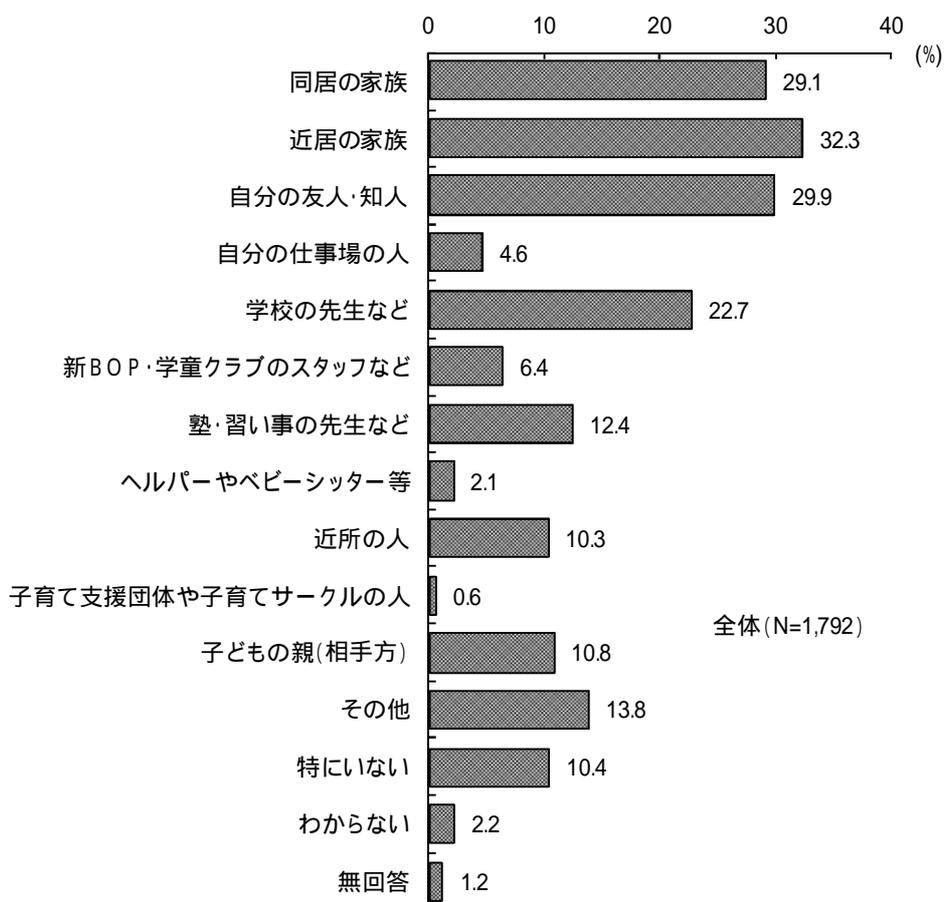
&lt;中学卒業後の子どもがいる人&gt;



## (10) 親以外に子どもが頼りにできる大人 (問 31)

親以外に子どもが頼りにできる大人をたずねたところ、「近居の家族 (32.3%)」、「自分の友人・知人 (29.9%)」、「同居の家族 (29.1%)」、「学校の先生など (22.7%)」などが多かった (図表 4 - 10)。

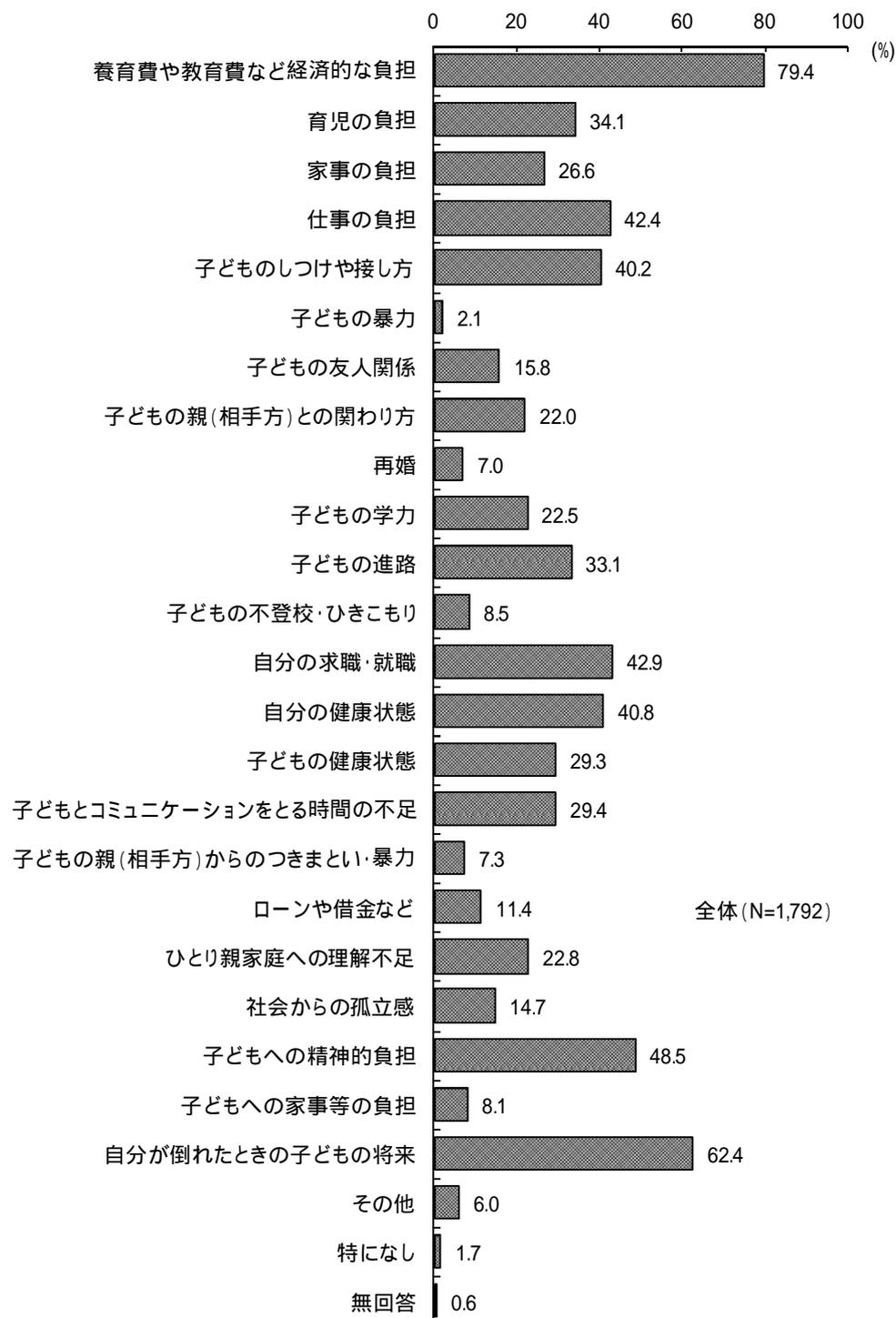
図表 4 - 10 親以外に子どもが頼りにできる大人 (全体：複数回答)



## (11) ひとり親になった頃の子どもや自分のことでの悩みごと(問32)

ひとり親になった頃の子どもや自分のことでの悩みごとをたずねたところ、「養育費や教育費など経済的な負担(79.4%)」、「自分が倒れたときの子どもの将来(62.4%)」がきわめて多く、これに「子どもへの精神的負担(48.5%)」、「自分の求職・就職(42.9%)」、「仕事の負担(42.4%)」、「自分の健康状態(40.8%)」、「子どものしつけや接し方(40.2%)」が続いた(図表4-11)。

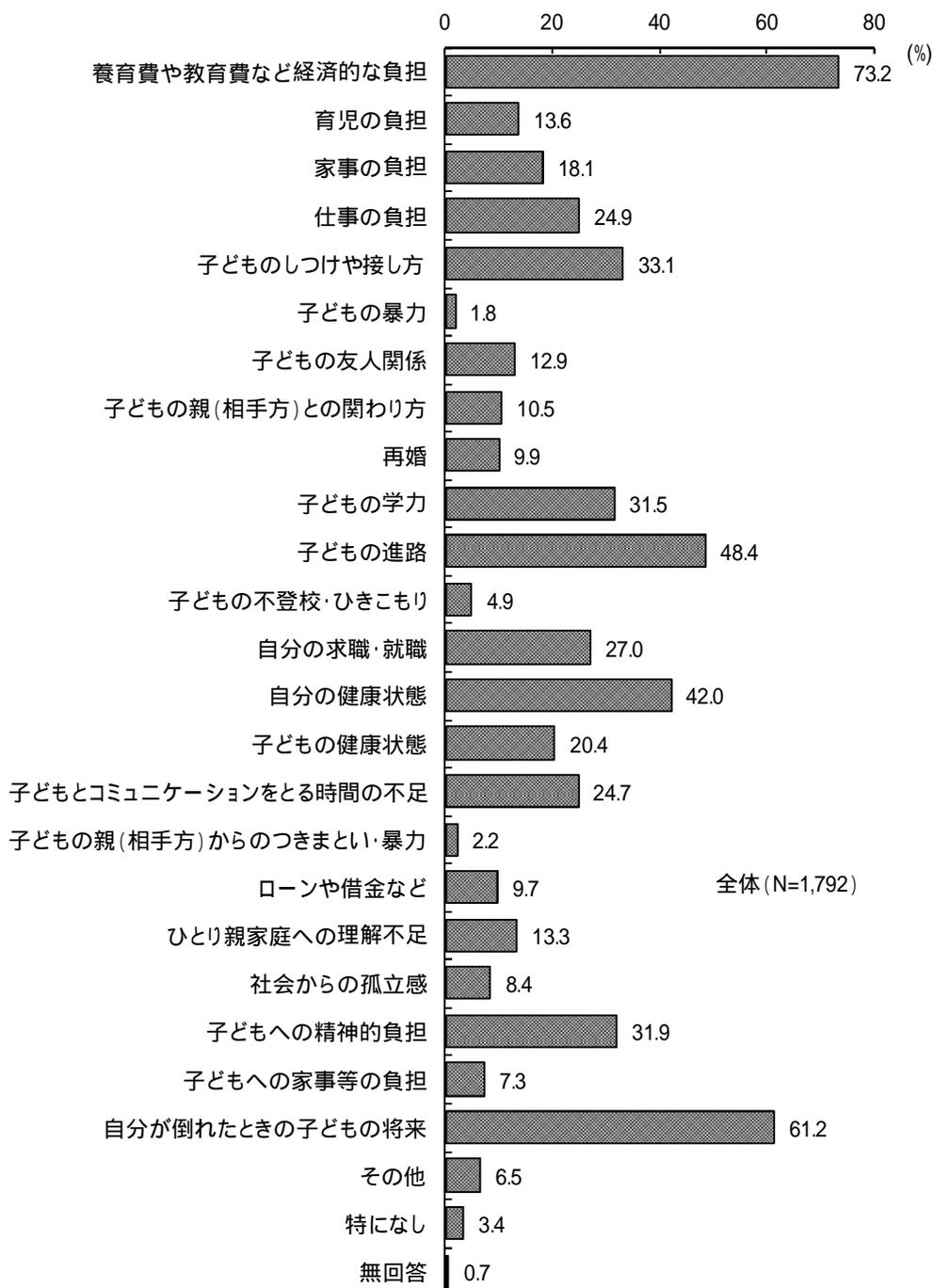
図表4-11 ひとり親になった頃の子どもや自分のことでの悩みごと(全体:複数回答)



(12) 現在、子どもや自分のことでの悩みごと (問 33)

現在の子どもや自分のことでの悩みごとをたずねたところ、「養育費や教育費など経済的な負担 (73.2%)」が最も多く、これに「自分が倒れたときの子どもの将来 (61.2%)」、「子どもの進路 (48.4%)」、「自分の健康状態 (42.0%)」が続いている (図表 4 - 12)。

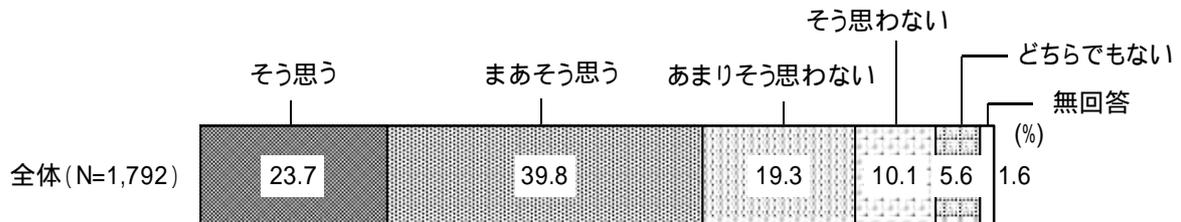
図表 4 - 12 現在、子どもや自分のことでの悩みごと (全体：複数回答)



## (13) 自分のことが好きだと思う (問 34 - 1)

自分のことが好きだと思うという肯定的な回答は 63.5%で、否定的な回答 (29.4%) を上回っている (図表 4 - 13)。

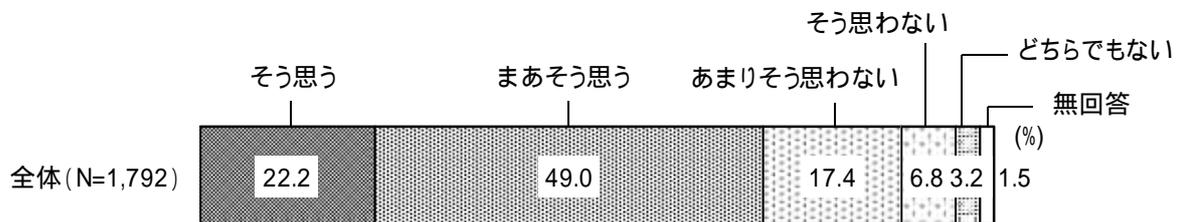
図表 4 - 13 自分のことが好きだと思う (全体)



## (14) 自分は他の人から必要とされていると思う (問 34 - 2)

自分は他の人から必要とされていると思うという肯定的な回答は 71.2%で、否定的な回答 (24.2%) を上回っている (図表 4 - 14)。

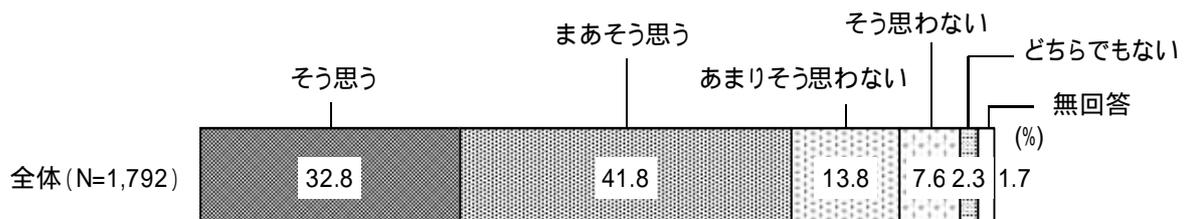
図表 4 - 14 自分は他の人から必要とされていると思う (全体)



## (15) 自分のことをわかってくれる人がいると思う (問 34 - 3)

自分のことをわかってくれる人がいると思うという肯定的な回答は 74.6%で、否定的な回答 (21.4%) を上回っている (図表 4 - 15)。

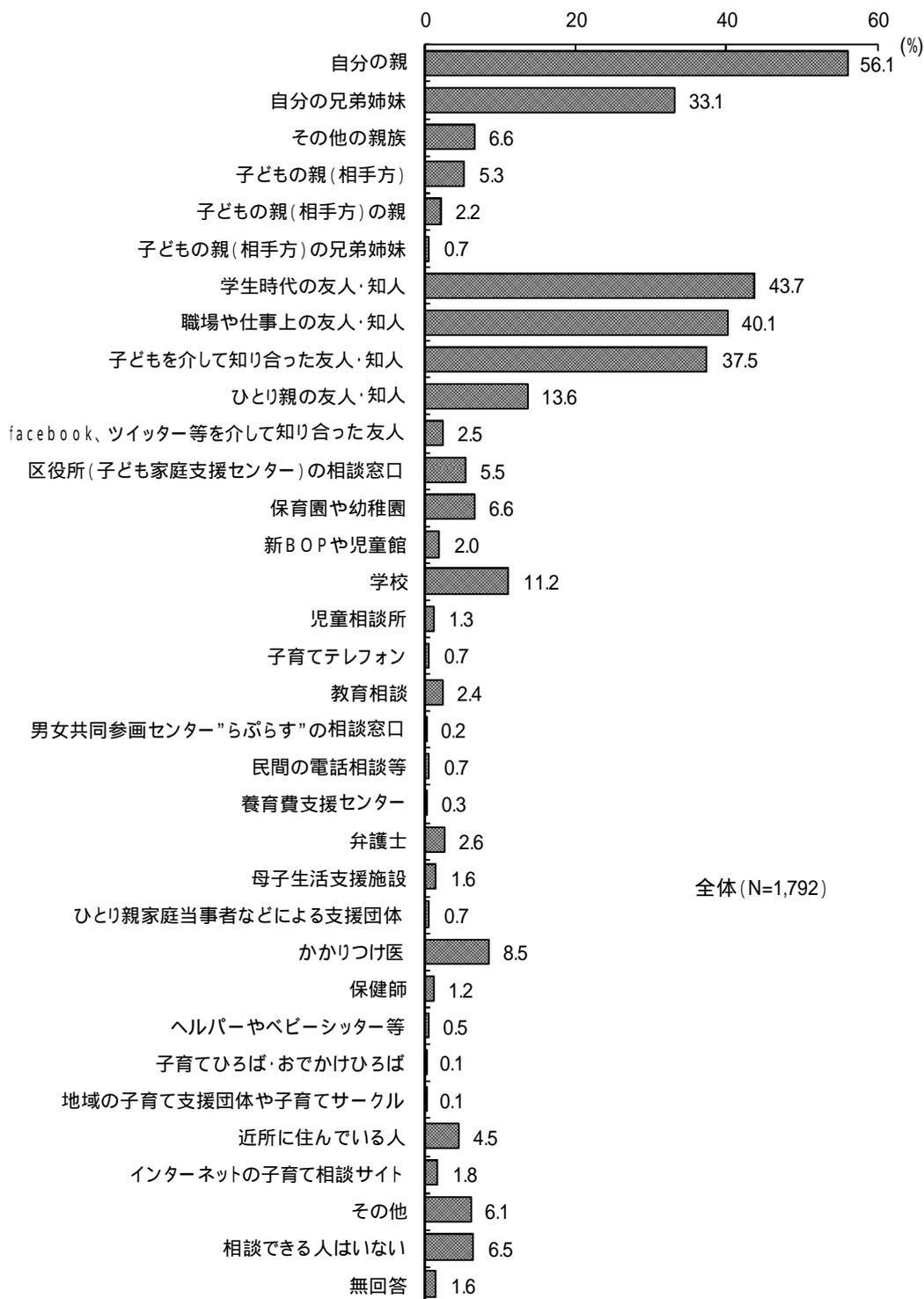
図表 4 - 15 自分のことをわかってくれる人がいると思う (全体)



## (16) 子どもや自分のことでの悩みごとの相談先 (問 35)

子どもや自分のことでの悩みごとの相談先として多かったのは、「自分の親(56.1%)」、「学生時代の友人・知人(43.7%)」、「職業や仕事上の友人・知人(40.1%)」、「子どもを介して知り合った友人・知人(37.5%)」などである(図4-16)。

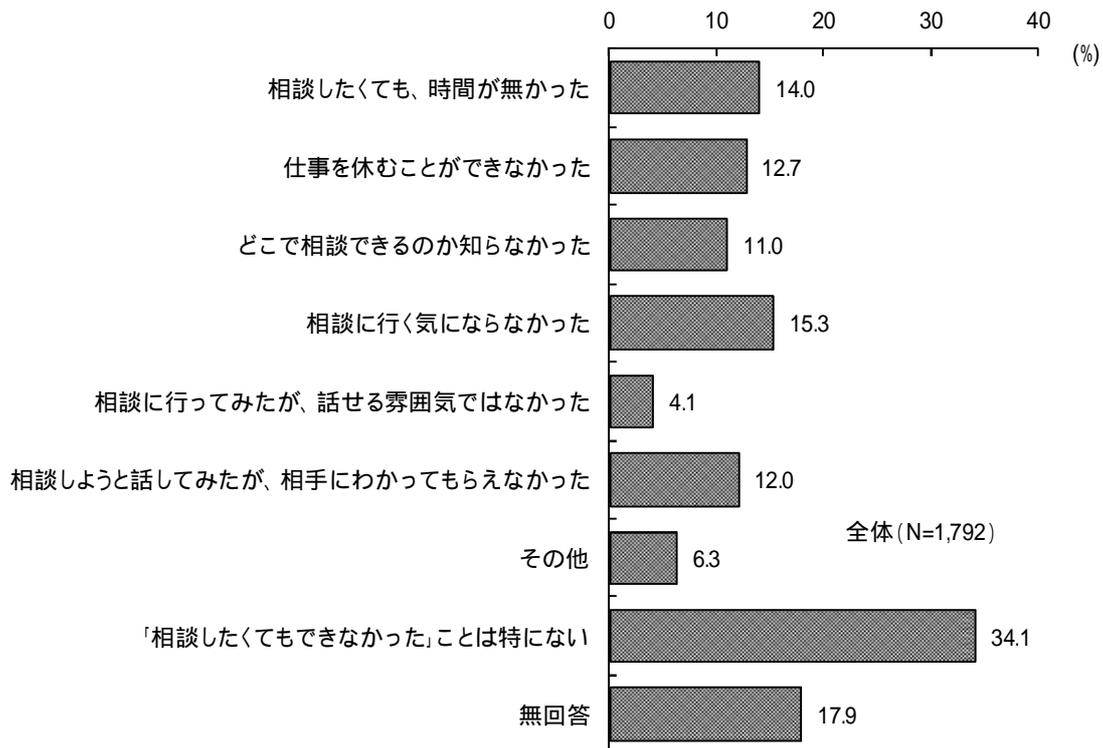
図4-16 子どもや自分のことでの悩みごとの相談先(全体:複数回答)



## (17) 相談したくてもできなかった理由 (問 36)

相談したくてもできなかった理由を全員にたずねたところ、「相談したくてもできなかった」ことは特にない(34.1%)とする回答が最も多く、これに「相談に行く気にならなかった(15.3%)」、「相談したくても時間がなかった(14.0%)」、「仕事を休むことができなかった(12.7%)」などが続いている(図表4-17)。

図表4-17 相談したくてもできなかった理由(全体:複数回答)



## (18) 世田谷区の総合支所の生活支援課の認知 (問 37)

世田谷区の総合支所の生活支援課の認知率は59.7%となっている(図表4-18)。

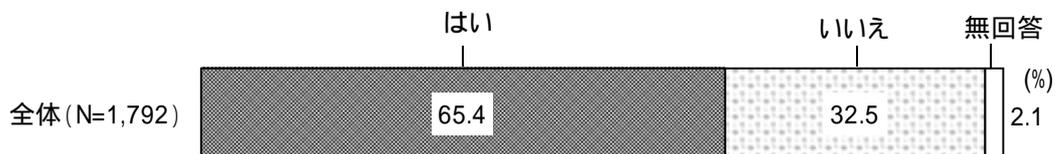
図表4-18 世田谷区の総合支所の生活支援課の認知(全体)



(19) 総合支所の生活支援課窓口利用の有無 (問 38)

総合支所の生活支援課窓口利用経験者は全体の 65.4%となっている (図表 4 - 19)。

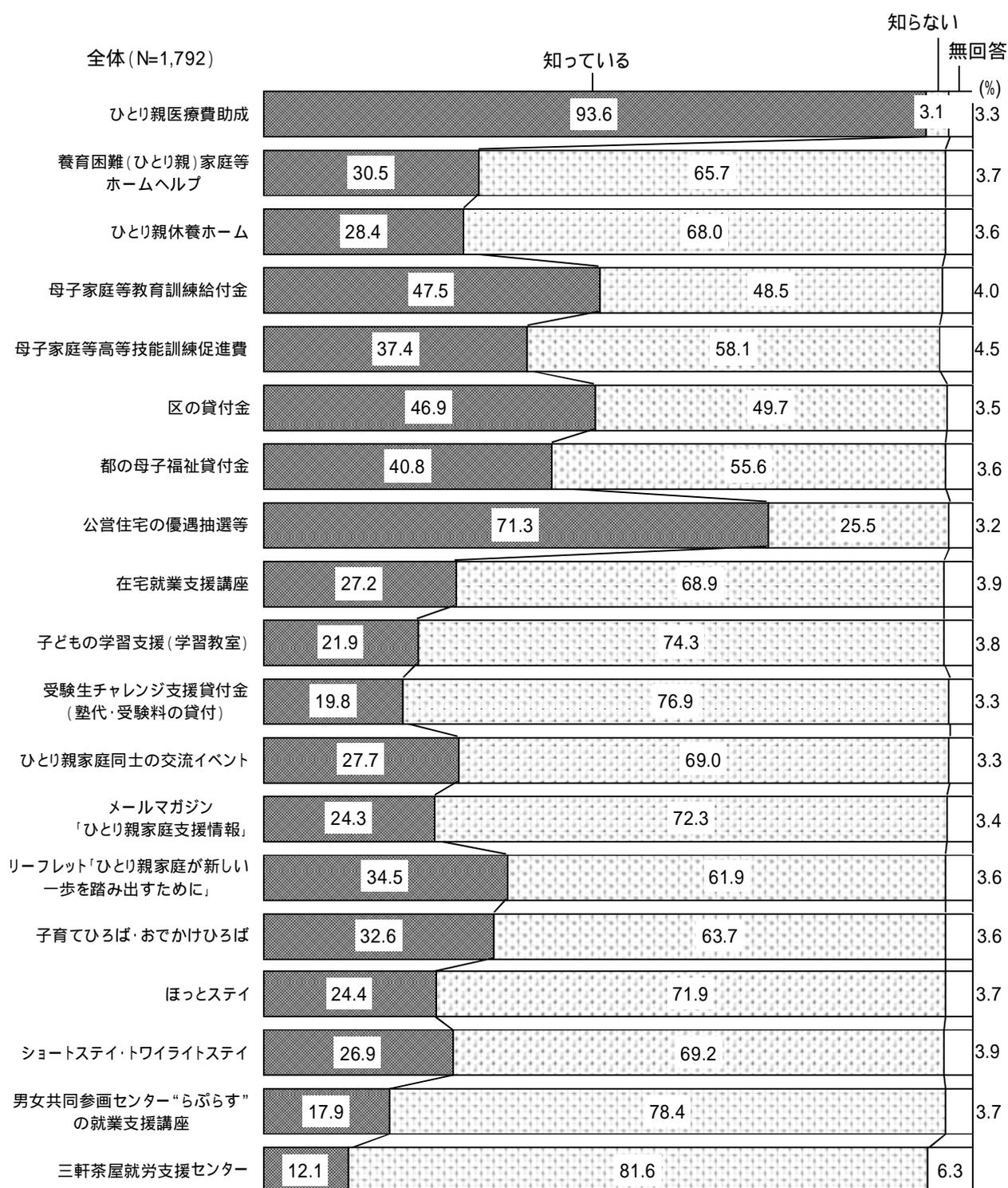
図表 4 - 19 総合支所の生活支援課窓口利用の有無 (全体)



## (20) 公的制度・施設等の認知状況(問 39 - 1 - 1)

公的制度・施設等の認知度が高いのは「ひとり親医療費助成(93.6%)」、「公営住宅の優遇抽選等(71.3%)」、「母子家庭等教育訓練給付金(47.5%)」、「区の貸付金(46.9%)」などである(図表4-20)。

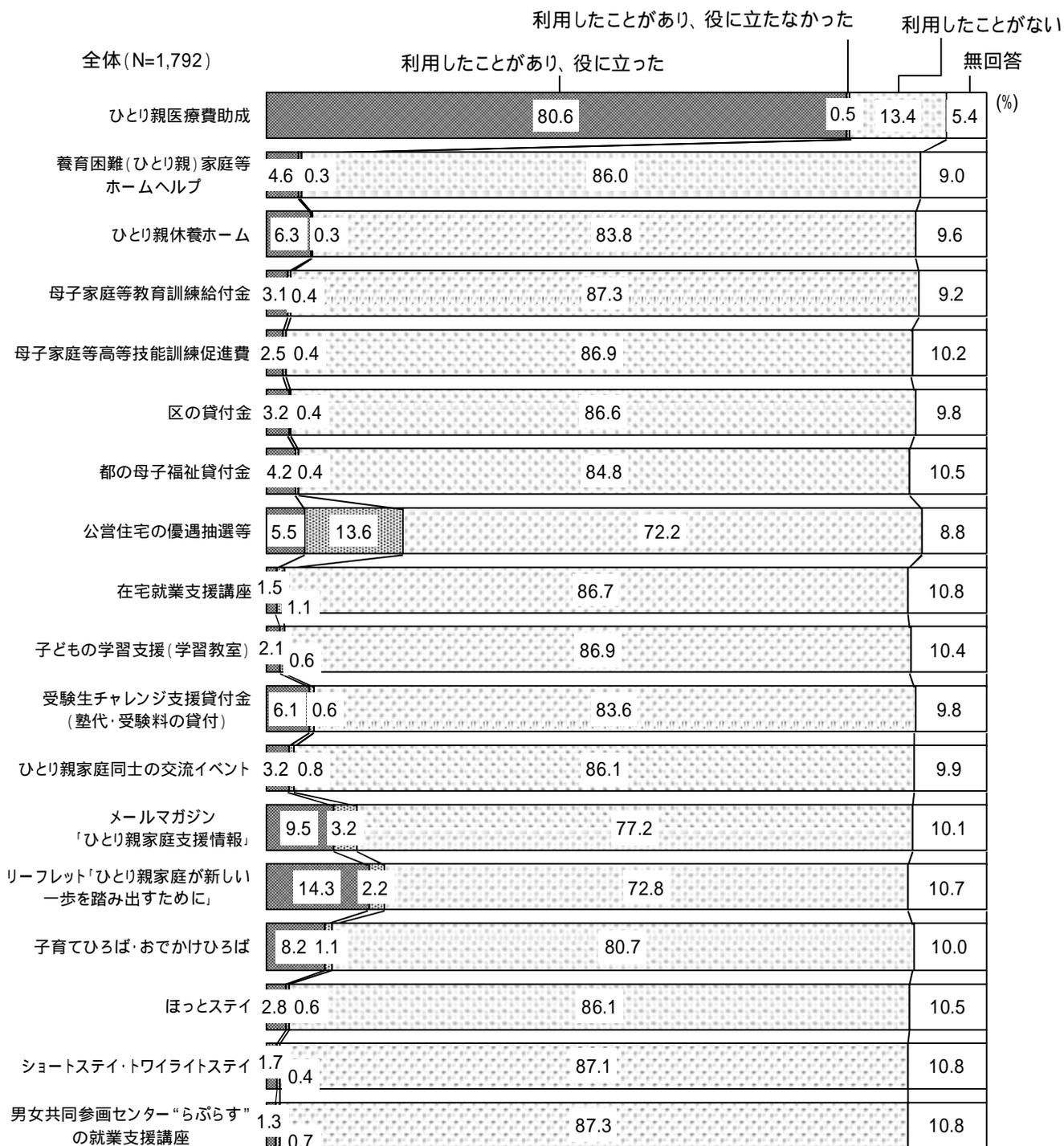
図表4-20 公的制度・施設等の認知状況(全体)



(21) 公的制度・施設等の利用状況 (問 39 - 2 - 1)

公的制度・施設等の利用状況への回答から、各種制度のうち「利用したことがあり、役に立った」ものは「ひとり親医療費助成 (80.6%)」, 「リーフレット「ひとり親家庭が新しい一歩を踏み出すために」(14.3%)」, 「メールマガジン「ひとり親家庭支援情報」(9.5%)」, 「子育てひろば・おでかけひろば (8.2%)」などである (図表 4 - 21)。

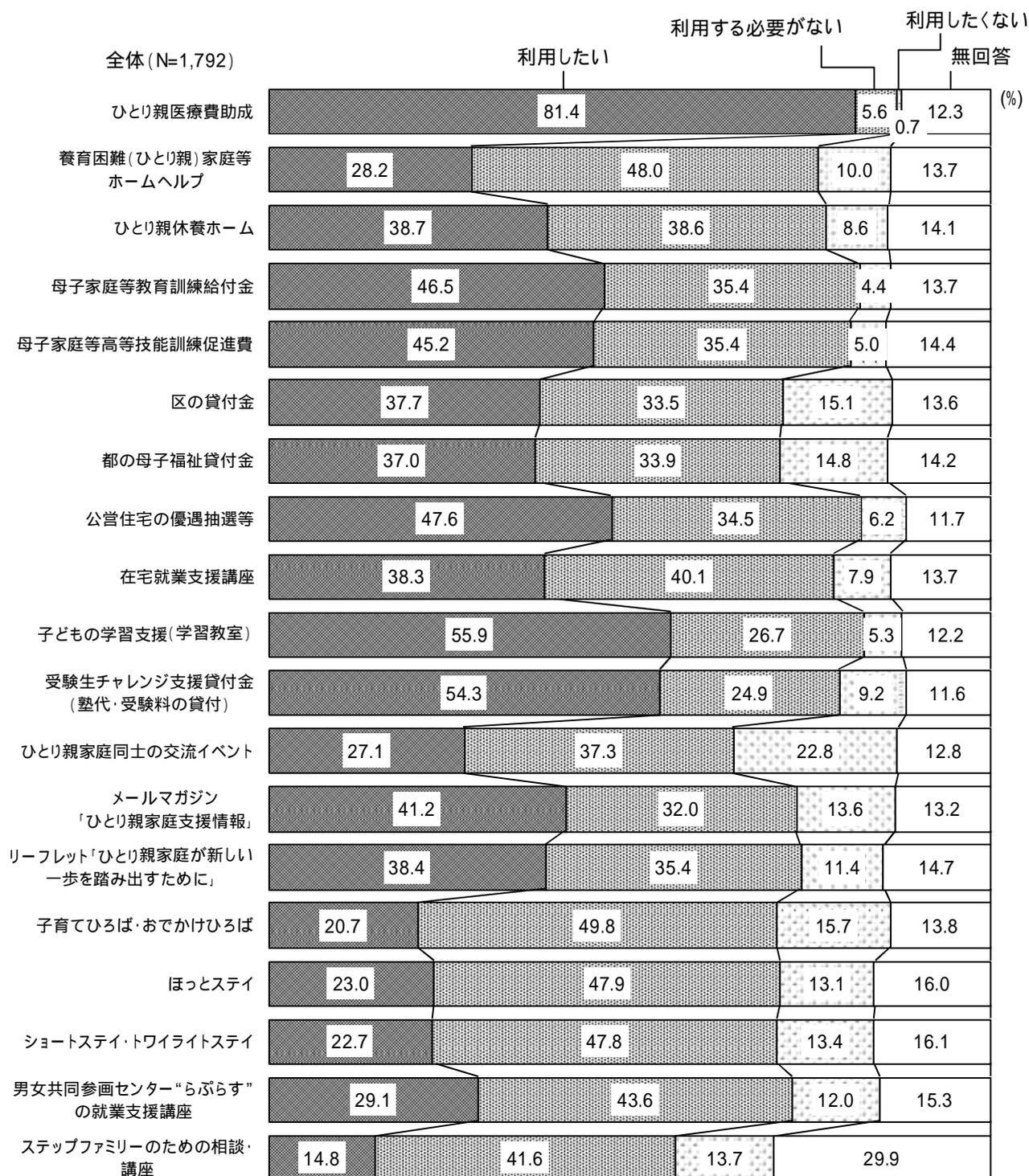
図表 4 - 21 公的制度・施設等の利用状況 (全体)



## (22) 公的制度・施設等の利用意向 (問 39 - 3 - 1)

公的制度・施設等の利用意向は全体的に高く、中でも「ひとり親医療費助成(81.4%)」、「子どもの学習支援(学習教室)(55.9%)」、「受験生チャレンジ支援貸付金(塾代・受験料の貸付)(54.3%)」は半数以上のひとり親が利用したいと考えている(図表4-22)。

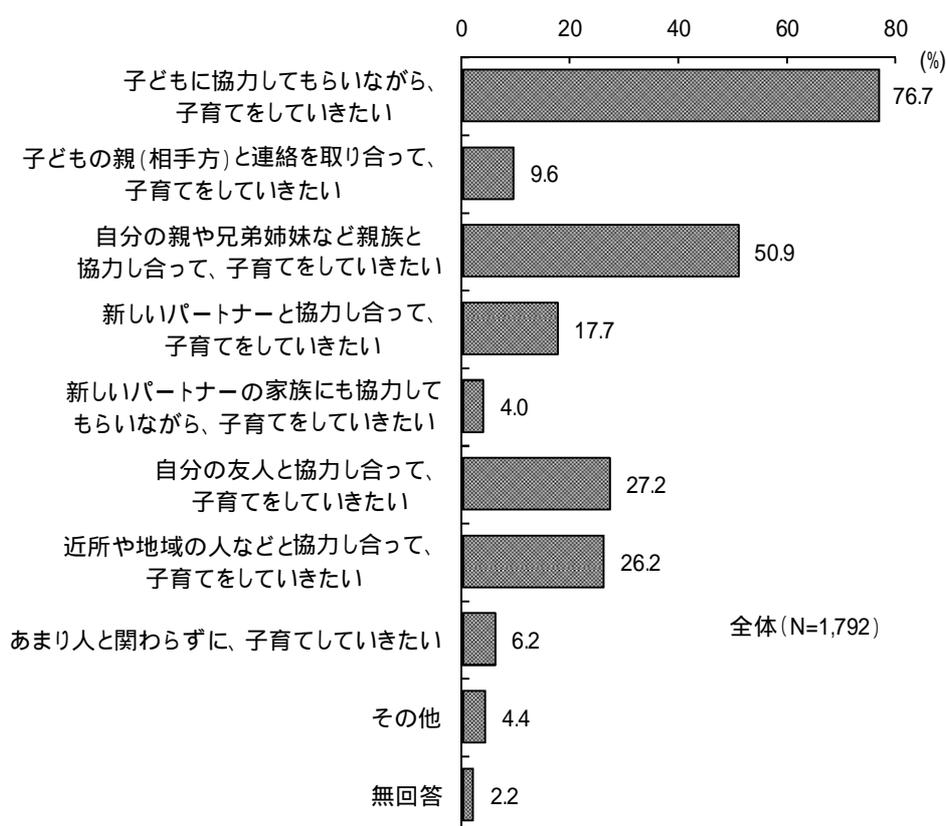
図表4-22 公的制度・施設等の利用意向(全体)



## (23) 人との関わりの中での子育てについて (問 40)

人との関わりの中での子育てについての考えを全員にたずねたところ、「子どもに協力してもらいながら、子育てをしていきたい(76.7%)」、「自分の親や兄弟姉妹など親族と協力し合って、子育てをしていきたい(50.9%)」、「自分の友人と協力し合って、子育てをしていきたい(27.2%)」、「近所や地域の人などと協力し合って、子育てをしていきたい(26.2%)」などの回答が多かった(図表4-23)。

図表4-23 人との関わりの中での子育てについての考え(全体:複数回答)



## 5 母子生活支援施設について

### (1) 母子生活支援施設の認知 (問 42)

女性のひとり親に対して、母子生活支援施設の認知をたずねたところ、知っている人の割合は半数を下回った (図表 5 - 1)。

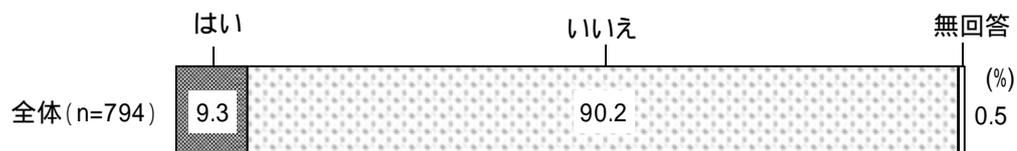
図表 5 - 1 母子生活支援施設の認知 (全体) < 女性 >



### (2) 母子生活支援施設の利用 (問 42 - 1)

施設を認知している女性に対して、母子生活支援施設の利用経験をたずねたところ、利用したことのある人は9.3%であった (図表 5 - 2)。

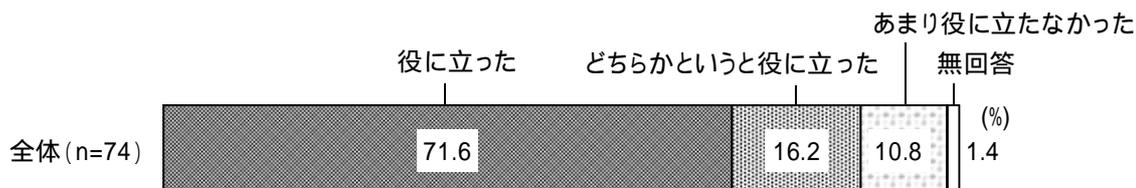
図表 5 - 2 母子生活支援施設の利用 (全体) < 施設を認知している女性 >



( 3 ) 母子生活支援施設はどの程度役に立ったか ( 問 42 - 1 - 1 )

施設を利用した女性に対して、母子生活支援施設は役に立ったかをたずねたところ、71.6%が「役に立った」と回答している ( 図表 5 - 3 )。

図表 5 - 3 母子生活支援施設は役に立ったか ( 全体 ) < 施設を利用した女性 >



( 4 ) 母子生活支援施設を利用しなかった理由 ( 問 42 - 1 - 2 )

施設を利用しなかった女性に対して、母子生活支援施設を利用しなかった理由をたずねたところ、「もともと、施設の利用を希望していない ( 64.4% )」が最も多かった ( 図表 5 - 4 )。

図表 5 - 4 母子生活支援施設を利用しなかった理由 ( 全体 : 複数回答 )  
< 施設を利用しなかった女性 >

